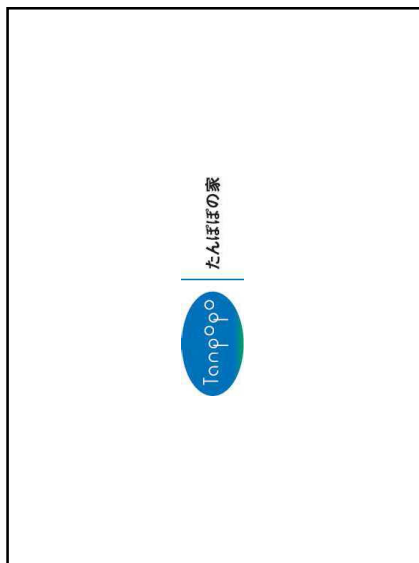


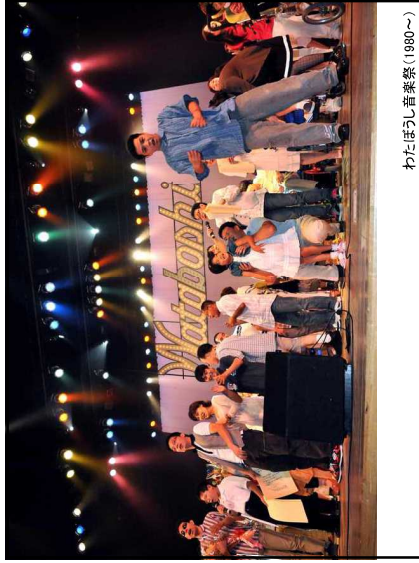
障害者の芸術活動への支援を推進するための懇談会中間取りまとめ
参考資料（障害者芸術の支援の取組等として懇談会に提出されたもの）

- ・ 第 1 回 岡部構成員提出資料 . . . 参考－ 1
- ・ 第 1 回 鈴木構成員提出資料 . . . 参考－ 1 1
- ・ 第 1 回 田端構成員提出資料 . . . 参考－ 3 1
- ・ 第 1 回 今中構成員提出資料 . . . 参考－ 6 3
- ・ 第 2 回 上野構成員提出資料 . . . 参考－ 6 7
- ・ 第 1 回 厚生労働省提出資料 . . . 参考－ 7 3
- ・ 第 1 回 文部科学省・文化庁提出資料 . . . 参考－ 7 5



基本的な考え

アートを通して幸福で豊かな生活を
営むことは、すべての人の権利



わたぼうし音楽祭(1980～)

ABLE ART MOVEMENT

1995～

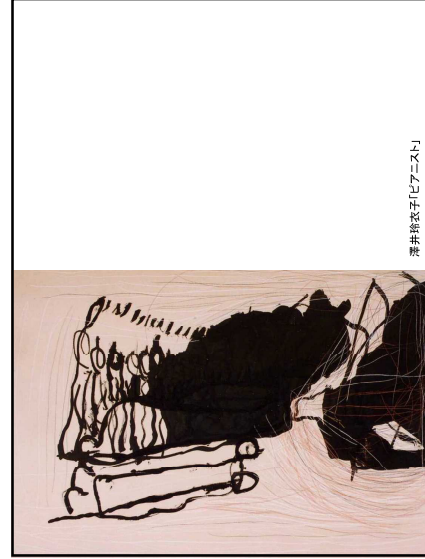


エイブル・アート'97・東京展「魂の対話」(1997)
東京都美術館

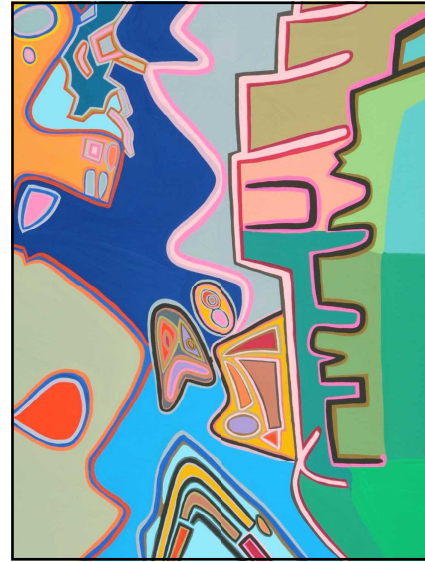


エイブル・アート'99
「このアートで元気になる」(1999)
東京都美術館

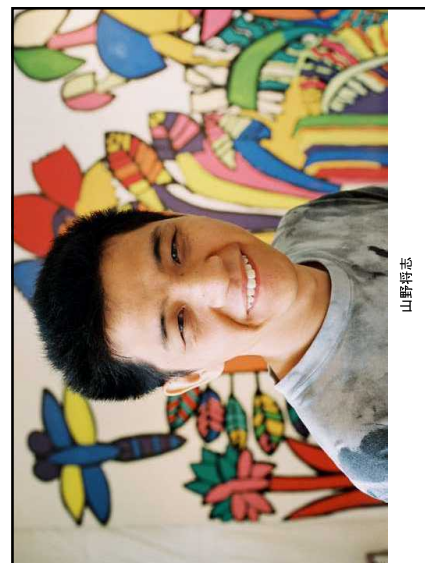
個人の尊厳を重んじ、
普遍的で個性豊かな文化を創造する



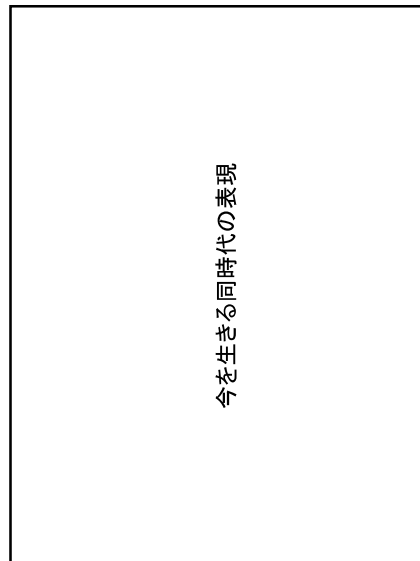
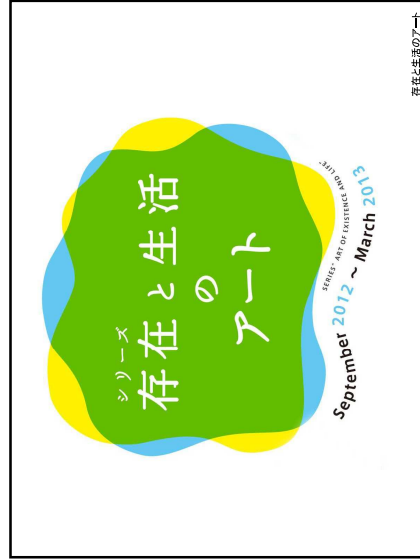
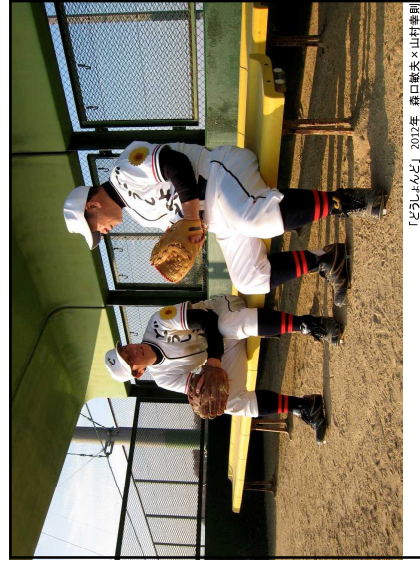
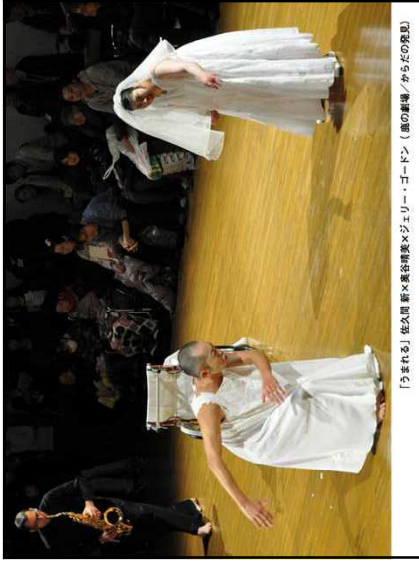
アートセンターHANA (2004～)



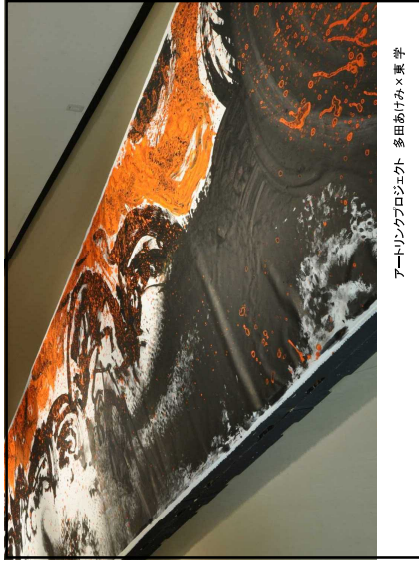
トヨタ・エイブルアート・フォーラム
1996年から2007年までの7年間にわたり、
34地域、計63回実施



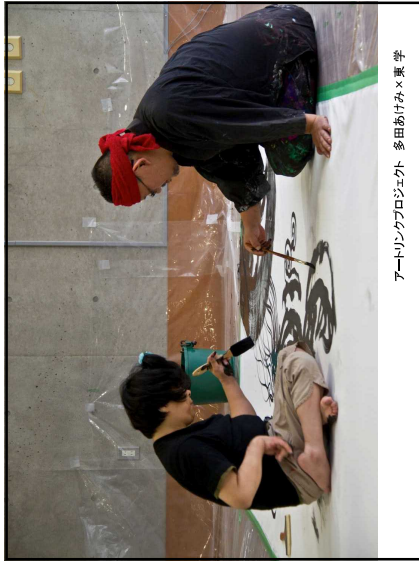
山野 得志



今を生きる同時代の表現



アートリンクプロジェクト 多田あけみ×東学



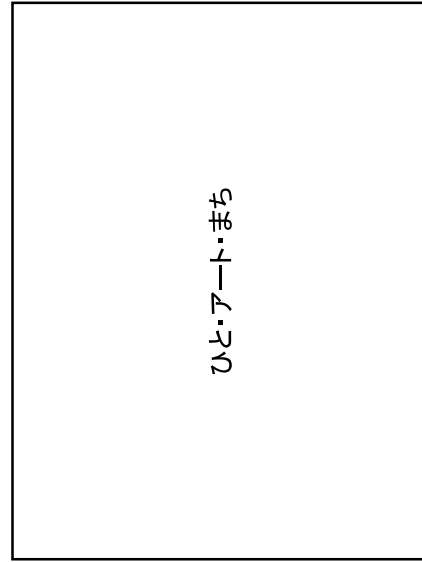
アートリンクプロジェクト 多田あけみ×東学



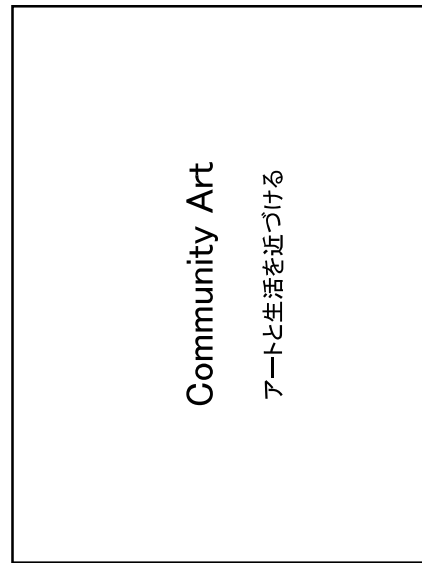
「どうしよんど」2012年 森口敏夫×山村健司



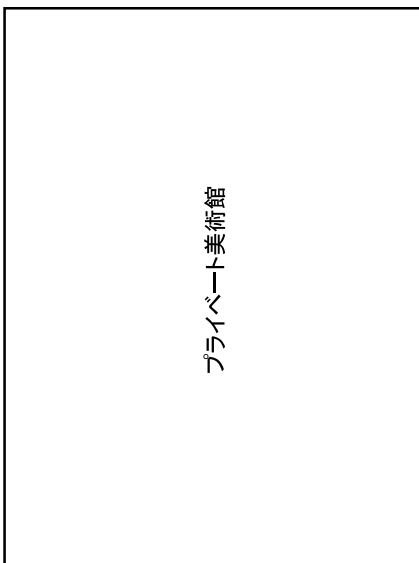
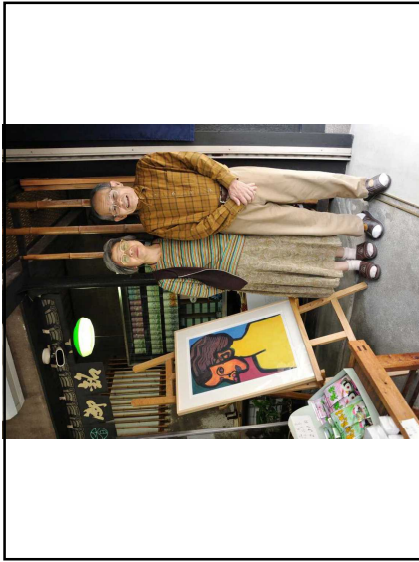
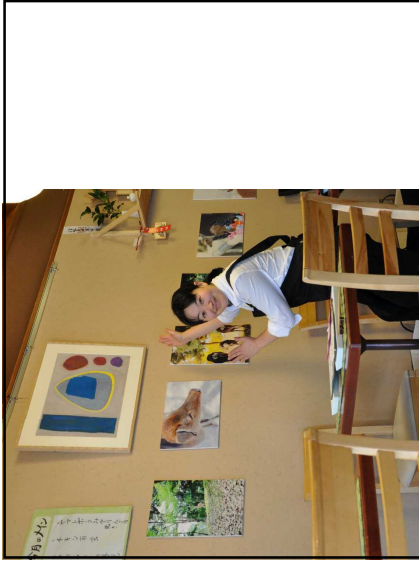
2000～2012
近畿2府4県を
2回巡回開催
2006年度セブアワード
文化庁長官賞受賞



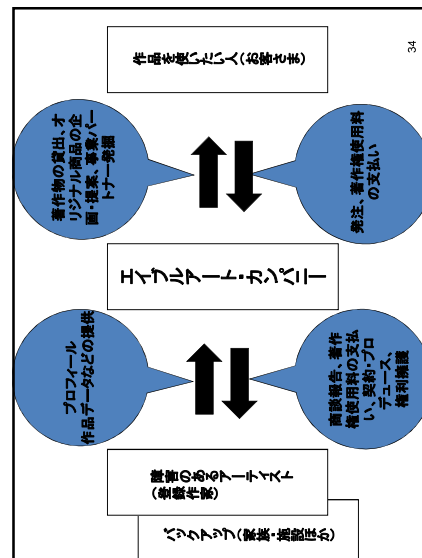
ひと・アート・まち

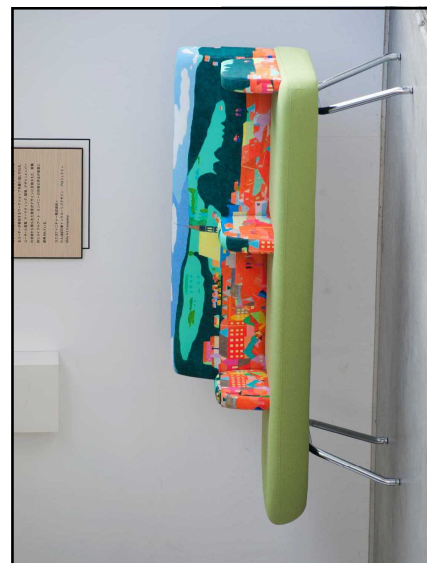
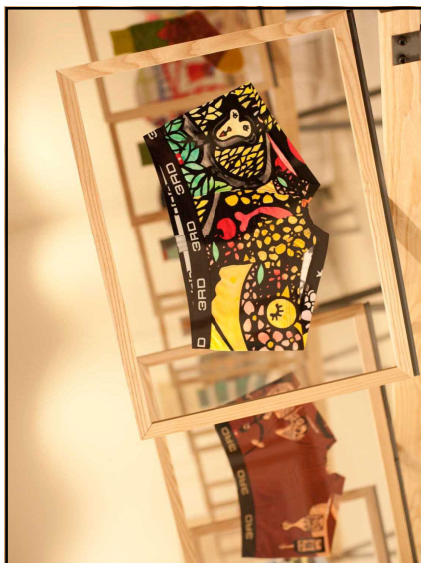
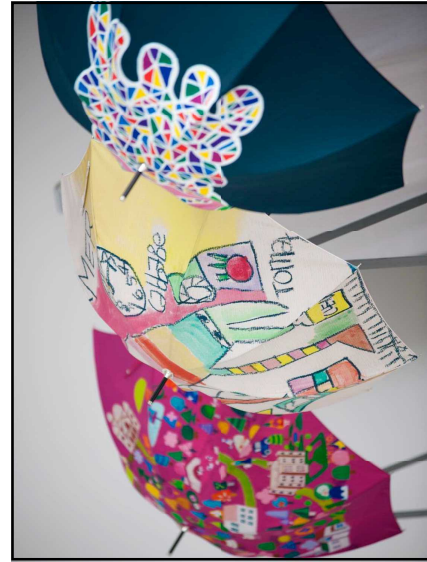
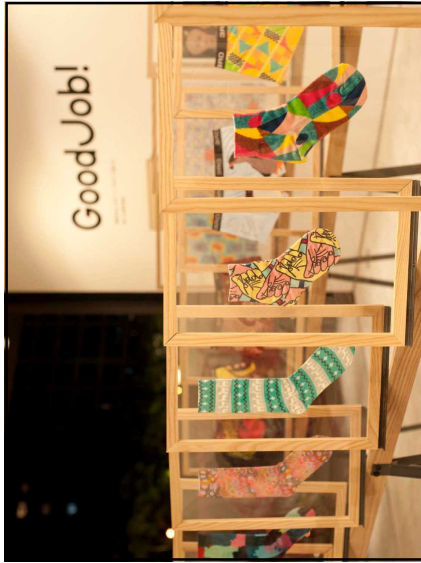


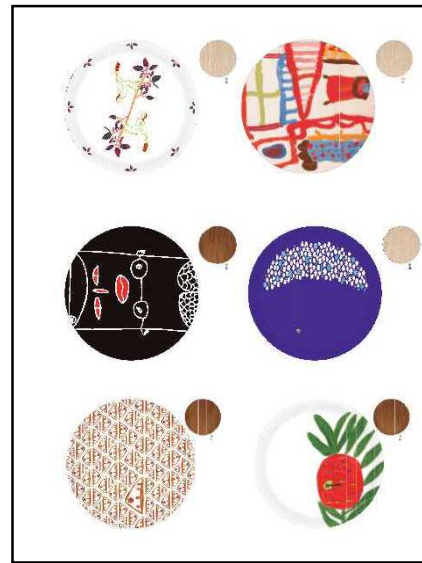
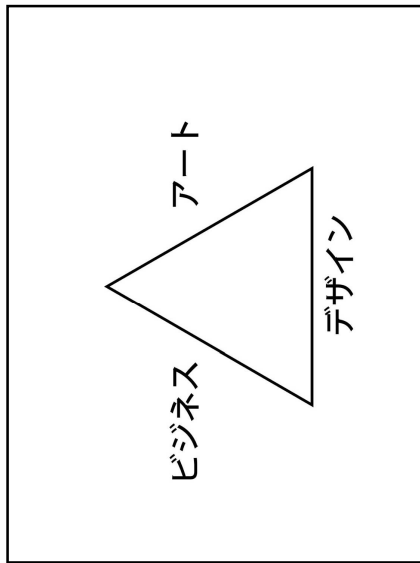
Community Art
アートと生活を近づける



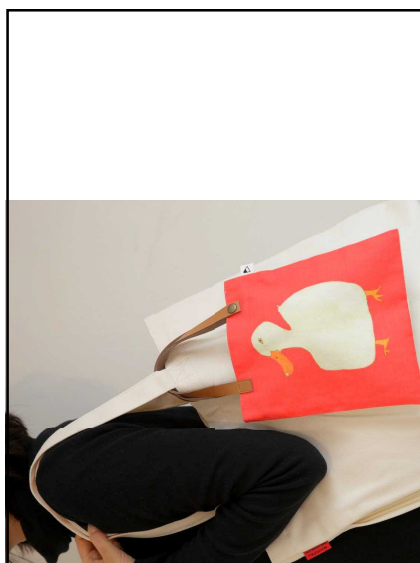
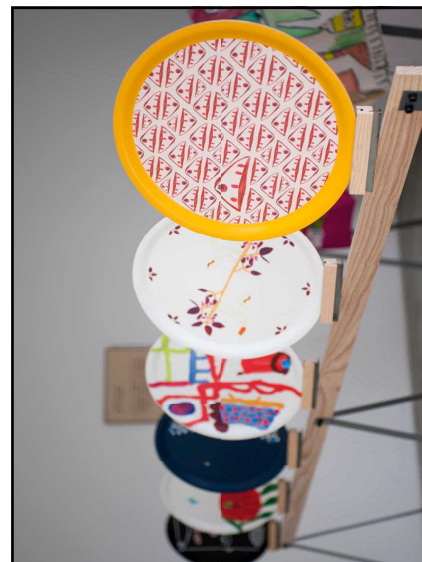
Good Job! Project
アートを「仕事」にする



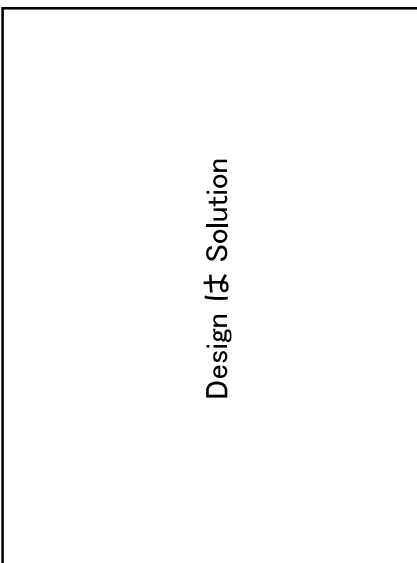




所得の再分配から
可能性の再分配へ

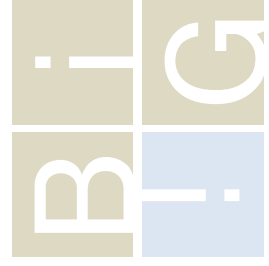


clart



障害者の 芸術活動への 支援を推進するための懇談会

国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)
事業運営受託者 ビッグ・アイ共働機構



国際障害者交流センター ビッグ・アイとは

About BiG-i

「国連・障害者の10年」を記念し、障害者の「完全参加と平等」の実現を図るシンボル施設として、厚生労働省により建設。平成13年9月にオープン。大阪府の外郭団体による運営の後、平成21年行政刷新会議の評価の結果、委託先および事業運営の見直しが行われ、事業委託公募によりビッグ・アイ共働機構が受託。ビッグ・アイ共働機構で行う障害者の芸術文化活動をはじめとする委託事業は年間約50事業、約15,000人が利用（参加）している。

《所在地》

大阪府堺市南区茶山台1-8-1
泉北高速「泉ヶ丘」駅より200m
南海「なんば」駅より約26分

《施設規模》

地下1階・地上3階
敷地面積：7,901.47㎡
延べ床面積：11,917.19㎡

《開設年月日》

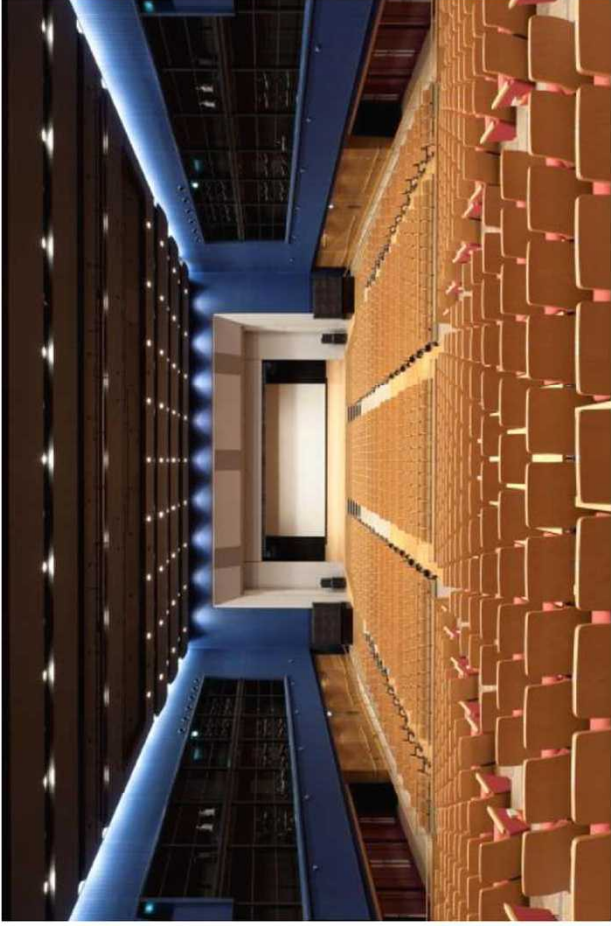
平成13年9月18日



About BiG-i

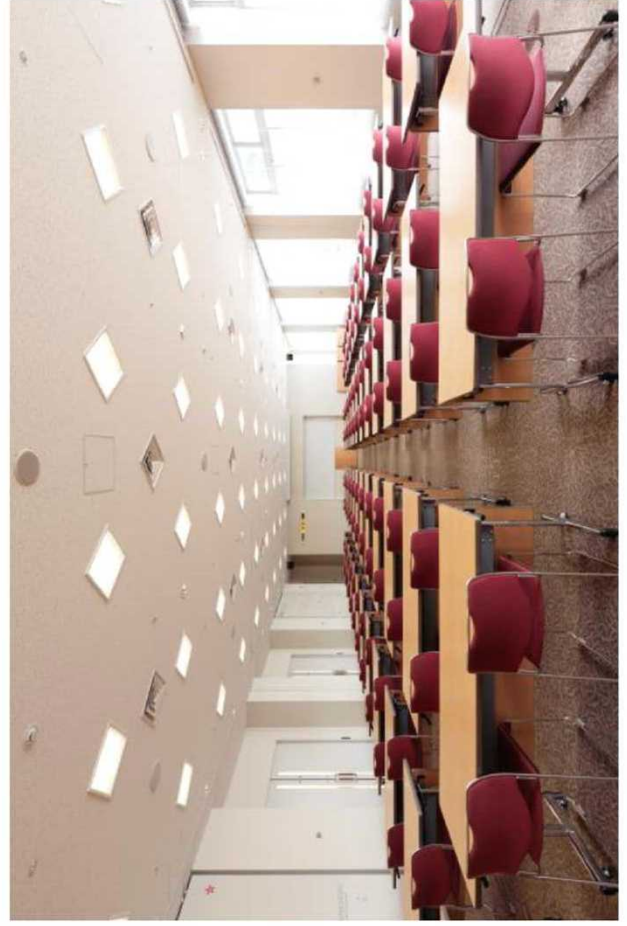
多目的ホール

- 客席：最大1,500席
- 車いす席：最大200席
- 車いす席利用の場合 客席：約1,000席
- 9面マルチスクリーン 2台（舞台左右両側）



研修室

- 全6室
- 大研修室(1・2) 最大約150名収容
 - 中研修室(3・4) 最大約90名収容
 - 小研修室(5・6) 最大約60名収容



About BiG-i

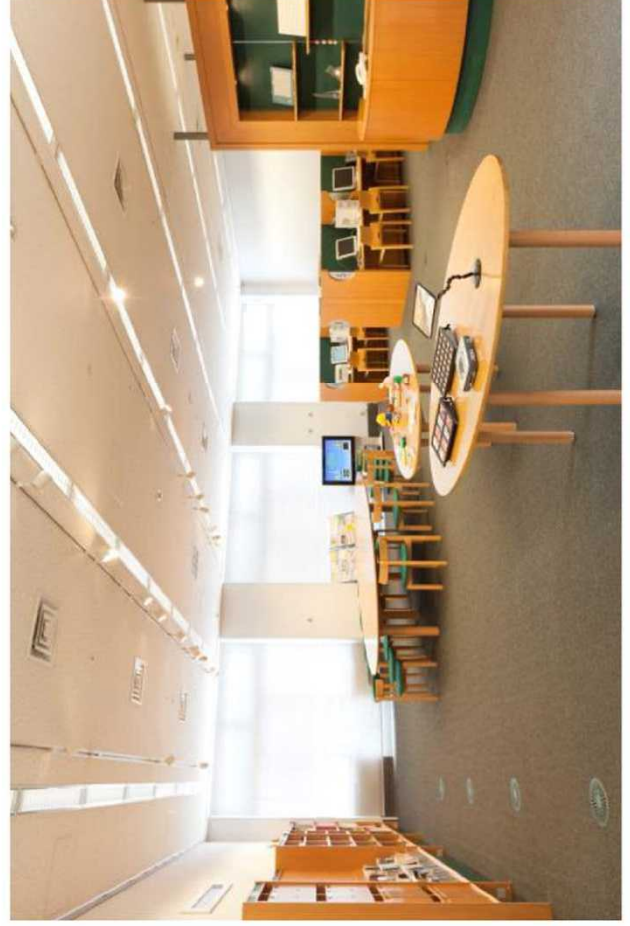
宿泊室

- 洋室(ツイン) 26室
- 和室 6室
- 和洋室 2室
- 洋室(特別室・重度障害者用)1室



その他

- バリアフリープラザ(フリースペース)
- レストラン
- 駐車場
- 多機能トイレ etc



About BiG-i

組織と運営体制

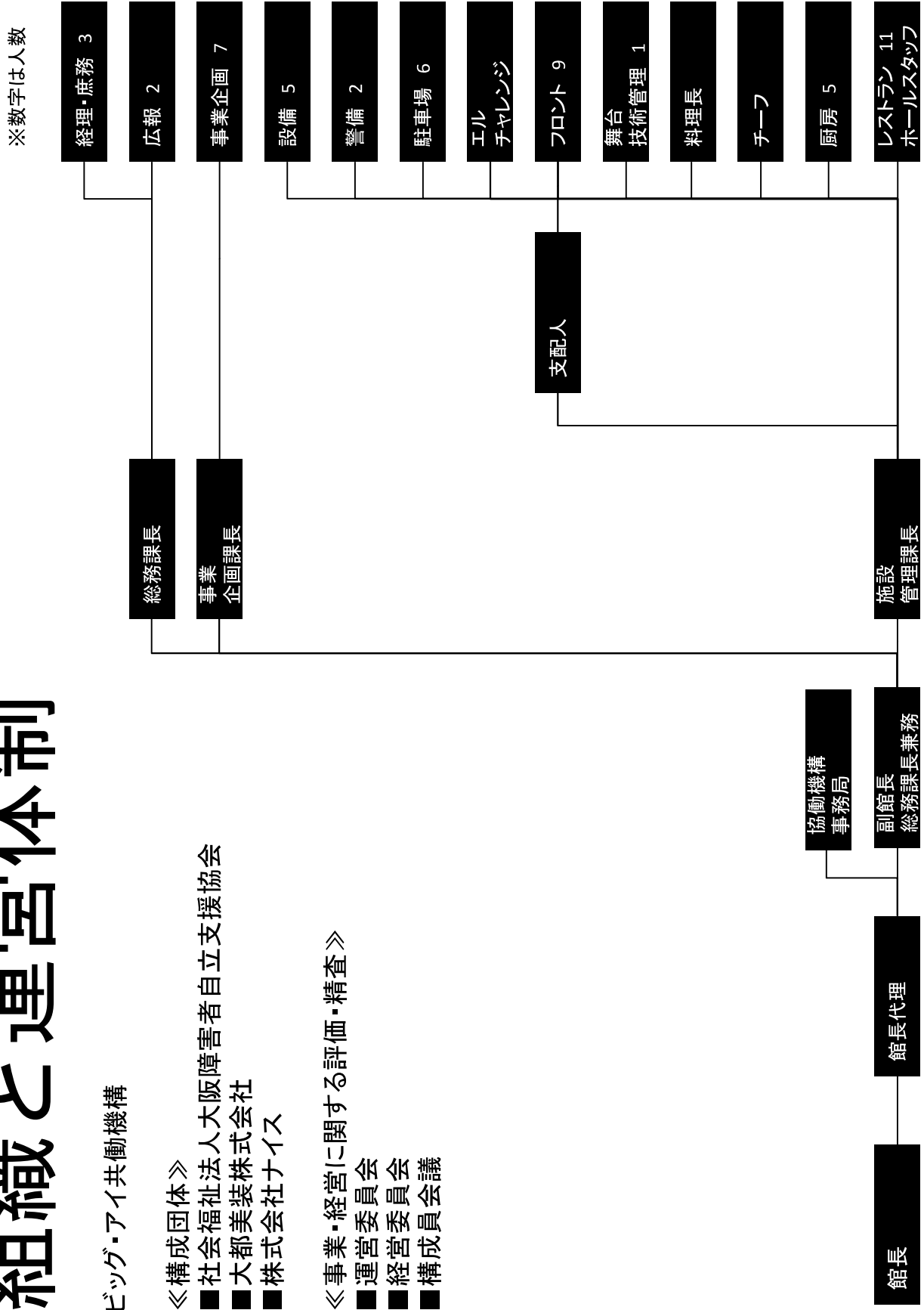
ビッグ・アイ共働機構

《構成団体》

- 社会福祉法人大阪障害者自立支援協会
- 大都美装株式会社
- 株式会社ナイス

《事業・経営に関する評価・精査》

- 運営委員会
- 経営委員会
- 構成員会議



About BiG-i

基本理念

1. 障害者が主役

障害者が支援されるだけでなく、事業へ多様な形で参加し、様々な場面で活躍できる施設を目指します。

2. 芸術文化活動や国際交流を通して障害者の社会参加を促進

芸術文化をツールに障害者の7社会参加を促進します。
世界各国や地域の障害者や障害者団体、関係機関との国際交流、国際協力を促進します。

3. 多くの人に親しまれる施設

施設が共生社会のモデルとなるよう、障害者だけでなく、広く障害のない人の利用を促進することで交流できる場、相互理解のきっかけとなる場を提供し、共生社会の理念の普及啓発や社会教育を充実させます。

理念に基づいた事業

施設の基本理念の実現のため、障害者福祉の推進を図るため、以下の4つの事業テーマに沿って事業を展開していきます。

《4つのテーマ》

- (1) 国際交流・国際協力
- (2) 障害者の芸術・文化の発信
- (3) 全ての障害者の交流
- (4) 大規模災害時の後方支援

理念に基づいた事業

(1) 国際交流・国際協力

- ①芸術・文化や障害者福祉、就労、障害者支援など様々な切り口で海外の専門家や関係機関、団体などとの協力や交流によって国際的な福祉の動向や情報を発信できる施設として事業を展開します。
- ②障害者の国際感覚を養う研修や芸術文化活動による交流のほか、アジアを中心とする発展途上国のモデル施設となる事業をおこないます。

(3) 全ての障害者の交流

- ①福祉に関する情報提供や生活相談などの情報拠点となる施設を目指します。
- ②障害の種別や程度に関らず利用や参加できる事業を運営します。

(2) 障害者の芸術・文化の発信

- ①障害者の社会参加と自己実現のツールとして事業を展開します。
- ②障害者自身による質の高い音楽祭や芸術祭、アート展の開催など自身の可能性や夢に繋がる事業を展開します。
- ③芸術を身近に触れ、体験し創造する場を提供します。

(4) 大規模災害時の後方支援

- ①東日本大震災や阪神淡路大震災の教訓に照らし、周辺地域が災害を受けた場合の福祉避難所として後方支援できる施設とします。
- ②被災障害者や災害時要支援者の支援活動をおこなうボランティアリーダーの育成事業及び視聴覚障害者の特性に対応した支援リーダーの養成事業をおこないます。

2

障害者の 芸術文化活動事業について

Art Program

芸術は、人に感動や喜びを与え、心豊かな時間を与えてくれるものです。また、多様な表現は、人の多様性を認め、互いを認め合い理解し、つながりを深める力もあります。障害の有無に関係なく、すべての人が「人生を豊かにする」時間を共有できる社会をつくることを目的に事業をおこなっています。

ビッグ・アイでの芸術文化事業は、アートプロジェクト(ビジュアルアート)とシアタープロジェクト(パフォーミングアーツ)を中心に障害のある人たちが芸術文化活動に参加できるロールモデルとなることを目指しています。

そのためには、サポート体制や情報保障を整備するほか、その必要性を社会へ発信できる事業を展開しています。

《主な事業》

体験・創造する

- ①ビッグ・アイ アートキャンプ(アートワークショップ)
- ②ビッグ・アイシンガーズ(シアターワークショップ)

発掘・育成する

- ①ビッグ・アイ アートプロジェクト 作品募集
- ②夢カナエルプロジェクト

鑑賞する

- ①ビッグ・アイ ステージ／ビッグ・アイシネマ
- ②ビッグ・アイ アートプロジェクト 企画展

発信する

- ①ビッグ・アイ アートプロジェクト 入選作品巡回展・国際交流展
- ②シアターが考えるバリアフリー
- ③情報紙「i-co(あいこ)」の発行

ビッグ・アイ・アートキャンペーン

一泊二日の滞在型アートワークショップ。
25年度は、視覚に障害のある方も触覚（手のひらなど）による鑑賞や創作のできる砂絵アートの合同作品製作と鑑賞会を実施予定。

《マリスとは》

視覚に障害のある人をはじめ、すべての人が鑑賞可能な新たな絵画の手法。従来の「砂絵」と違い、砂の粒子の粗さで明度を、ハーブエッセンシャルオイルの香りでさまざまな色を表現する。



Art Program

ビッグ・アイシンガーズ

障害のある人もない人も一緒に、秋のコンサートでのステージ発表を目指して練習を重ねる歌のワークショップ。
昨年は4回のステージを経験、ゲスト歌手との共演もあった。

《講師》human note

関西を中心に活動するシンガーソングライター寺尾仁志がディレクションする700名のシンガーズ。年齢・性別に関係なく、歌うことが好きで集まったメンバーが歌を届ける。その歌を聞いてくれた人が元気になる！そんな人々の笑顔により、歌を届ける自分たち自身も元気になる！！そんな「ウタのある人生の充実」をテーマに活動している。



Big-i Singers
歌う門には福きたる!!
Sing! and be happy!! Supported by human note
ビッグ・アイシンガーズ 参加者募集!

音楽が大好き、歌が大好き そんな仲間が集まって、つながりあう。
楽しいワークショップにあなたも参加しませんか♪♪♪

参加無料

初参加歓迎

練習日時
2013 6/29(土) 7/15(月・祝) 8/3(土) 9/28(土) 10/6(日)
2014 1/19(日) 2/15(土) 3/16(日)

※基本的にすべての回に参加していただくようお願いいたします。

会場：ビッグ・アイ 研修室 ■定員：30名(応募多数の場合は抽選) ■応募締切：2013 6/2(日) 必着
■応募：ハガキまたは封書、FAX、Eメールに必要事項をご記入の上、ご応募ください。
※詳しくは、お問合せいただくかビッグ・アイホームページをご覧ください。

各日14:00~16:00

BIG-i

アートプロジェクト 作品募集

国内外でアート活動をおこなっている障害のある人たちの作品を募集し才能ある作者やオリエイターの高い作品を発掘し紹介する。アーティストたちへの夢や可能性に繋がるコンテストを開催している。選定は、全て実物による審査をおこなっている。(海外からの応募は1次写真審査あり)

《審査員》

西村陽平(造形作家)
秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)
上田バロン(イラストレーター)
柿沼康二(書家・アーティスト)
永野一晃(写真家)

《募集内容》

国内外を問わず、障がいのある人が制作したアート作品で未発表のもの。

《出品規格》

絵画、イラスト、グラフィックデザイン、書、写真、造形など。素材やテーマは自由。

《入選特典》

入選作品は、国内数カ所の巡回展で展示するほか、入選作品集(図録)に掲載。オリジナルグッズの作成など。



Art Program

夢力ナエルプロジェクト

表現者として、企画者として、様々なアート活動をしていく中で持つ夢をビッグ・アイと共に実現するプロジェクト。ビッグ・アイの専門スタッフと一緒に企画から本番まで公演制作を企画者自身が経験し、公演制作に必要なノウハウを学び、人とのネットワークづくりを図る。

24年度は、演劇活動する障害者自身が脚本から主演を務めた一人芝居「闇の中・輝く命」と、コンサートを企画・プロデュースした「懐かしの音楽と世界の名曲コンサート」を実施。



Art Program

ビッグ・アイステージ

国内外の質の高い芸術やプロで活躍している障害者アーティストによる公演や映画を障害の種別に関係なく誰もが鑑賞できるサポート付の公演(上映)会。
障害のある人もない人も同じように芸術を楽しむ感動できる時間と空間を提供。

東西狂言会 バリアフリー狂言でござる

《出演》

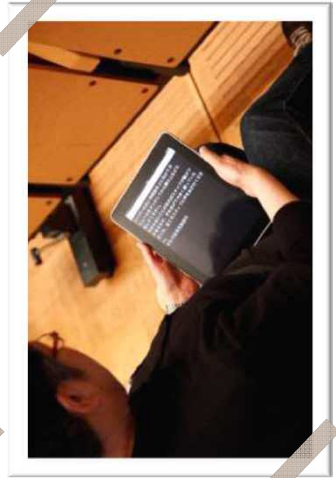
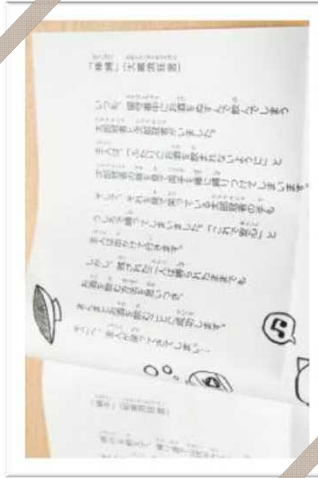
茂山千五・郎野村萬斎ほか

《演目》

大藏流狂言「棒縛」
和泉流狂言「蝸牛」

《サポート体制》

手話／字幕
音声補聴
状況放送
点字パンフレット
拡大文字パンフレット
演目ガイド(絵本スタイル)
補助犬同伴可
車いす席(100席)
特別鑑賞スペース(10名)



ビッグ・アイステージ 東西狂言会

バリアフリー 狂言でござる

2013年4月20日(土)
開演14:00[開場13:30] / 終演15:30

◆会場:ビッグ・アイ(国際障害者交流センター) 多目的ホール

定員:1,200名
(要事前申込)
※観覧席以上

観覧無料

和泉流狂言
「蝸牛(かきう)」
山内/野村萬斎
主役/高橋
太郎冠者/白田幸雄
見立/中村舞

大藏流狂言
「棒縛(ぼうしぼり)」
太郎冠者/茂山千五郎
次郎冠者/茂山正郎
主人/綱谷正美
見立/井口竜也

解説 野村 萬斎

手話通訳
要約筆記
副音声ガイド
音声補聴
補助犬同伴可

Art Program

ビッグ・アイシネマ

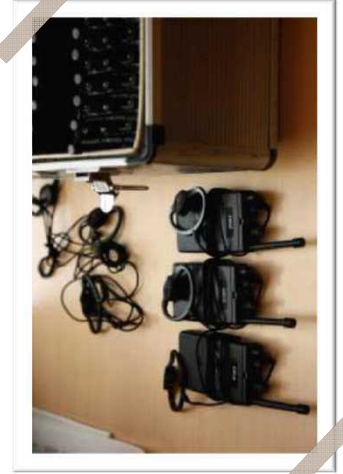
国内外の質の高い芸術やプロで活躍している障害者アーティストによる公演や映画を障害の種別に関係なく誰もが鑑賞できるサポート付の公演(上映)会。
障害のある人もない人も同じように芸術を楽しむ感動できる時間と空間を提供。

ビッグ・アイシネマ 最強のふたり

さあ、人生に繰り出そう。
インテリでシニカルな全身不随の大富豪と、
粗野で愛嬌モノの黒人青年、
出会うはずのないふたりに起こった、最高の奇跡とは？

《サポート体制》

手話
字幕
音声補聴
状況放送
点字パンフレット
拡大文字パンフレット
補助犬同伴可
車いす席(100席) など



アートプロジェクト企画展

障害のある人もない人も鑑賞できるアート作品の展示や才能ある障害者アーティストの作品を紹介する企画展を実施。

《実施例》

- さわる絵本展
- アートプロジェクト 海外作品展
- 世界のバリアフリー絵本展
- 高橋りくマリス 個展 in ビッグ・アイ



アートプロジェクト

ト入選作品展

アートプロジェクト作品募集の応募作品から選ばれた入選作品50点を東京・横浜・大阪にて巡回展示。視覚障害者への鑑賞サポートとして作品の音声ガイドをDAISYにて行っている。

《2012年度展示会場》

東京：Bunkamura Box Gallery

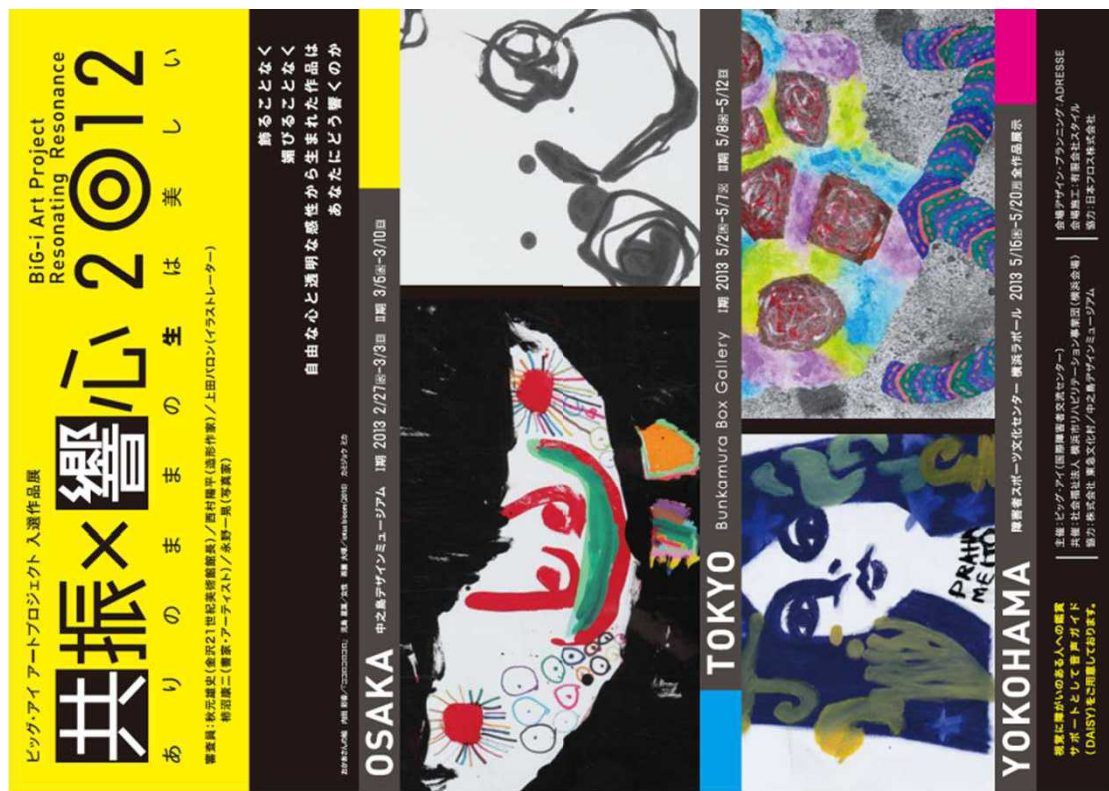
横浜：障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

大阪：中之島デザインセンター de sign de >

韓国：ソウル市立慶熙宮美術館 第1展示室
スリランカ

《関連イベント／アートワークショップ》

- BiG-i★Zoo 夢の動物園をつくろう！
- お散歩カメラ ■ 見えない中に見えるもの
- 楽しく自由に楽しいで書っ ～感性からのメッセージ～



シニアが考えるバリアフリー

障害のある人たちが、自身の住む地域や日常の行動範囲の中で、もっと身近に気軽に芸術に芸術を楽しめる参加の機会を促進するため、全国の公立文化施設にむけて現状の取り組みを調査し報告書にまとめた。

今後は、この調査結果をビッグ・アイの事業をモデルケースにしたマニュアルを作成するほか、研修事業等にも積極的に取り組んでいく。

この調査をきっかけに都道府県、市町村からのバリアフリー事業運営におけるサポートについての問い合わせや文化施設からの見学、研修の依頼なども増えた。

《調査の方法》

- 調査地域：全国
- 調査対象：公立文化施設
(全国公立文化施設協会に登録している1,247施設)
- 調査方法：郵送によるアンケート配布および回収

《回答数》

- アンケート調査票送付数 1,247施設
- 回答数 457施設
- 回収率 36.6%

《調査項目》

- 障害者サポートの実施状況
- 障害者の施設利用数
- 障害者サポートに対する意識 など

(4) 自主事業の障がい者参加について

図1 自主事業に年間どれくらいの障がい者が参加されますか？

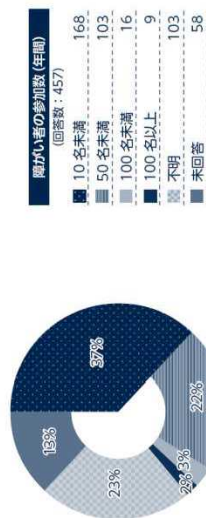


図2 障がい者からサポートについての問い合わせなどはありますか？

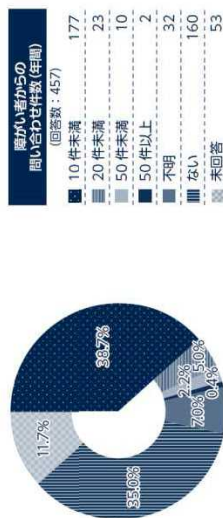
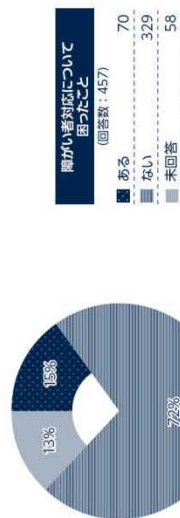


図3 障がい者が事業に参加されて対応に困ったことはありますか？



「i-co」の発行

《仕様》

サイズ: タブロイド版 4ページ

発行部数: 16,000部

発行回数:年4回(2012年度は6回)

《先送》

ビッグ・アイの利用者や、地方公共団体障害福祉担当課、全国の社会福祉協議会、支援学校、障がい福祉関係団体等へ配布



ビッグ・アイの課題

3

Problem

現在ビッグ・アイが、おこなっている障害者の芸術文化支援事業において取り組まなければならない課題は以下の項目です。

1. 展示スペースの充実

【現状】施設内のフリースペースおよび研修室で可動式美術用パネルで展示

2. アート作品の保管場所

【現状】温度調整のできる倉庫で保管

3. 舞台（ホール）設備の改修と改善

【現状】研修室を楽屋として利用／リアルタイム字幕を9面マルチに出カ→タブレットタイプを検討中

4. 障害者芸術における相談機能窓口の強化と周知

【現状】正式な相談窓口として周知していない。

5. 全国の障害者を対象とした事業の拡大

【現状】巡回展のみ（東京・横浜）

6. 公共・民間の文化施設との協力体制およびネットワークの構築

【現状】シアターが考えるバリアフリーの配布／文化施設からの相談および問い合わせ対応・見学受け入れ
研修事業への講師派遣

最後に

Afterword

ビッグ・アイは、障害のある人たちの社会参加や日々の生活向上を目指し芸術文化事業を行っています。障害のある人たちが、身近に芸術に触れ感じることができような配慮とバリアフリーが社会に拡がれば、障害のある人たちだけではなく、高齢者や子どもなど、誰もが心豊かな人生をおくれると思っています。多様な個性と表現を受け入れ認め合える芸術が共生社会を育むうえでの大きな力となることを信じて、今後も事業に取り組んでまいりたいと思っています。



ボードレス・アート ミュージアムNO-MAの 取り組みについて

滋賀県社会福祉事業団企画事業部

2013.6.11 障害者の芸術活動への支援を推進
するための懇談会(第1回)資料

1



ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

滋賀県近江八幡市の古い民家を改装して平成16年開館



NO-MA正面玄関



1階展示室「踊る細胞」
展示風景（平成25年）



2階展示室
「スーパー・ワールド・オン・ペーパー」
展示風景（平成25年）

障害の有無を超えて、人が持つ「表現をすることの普遍的な力」を感じていただく場
⇒ひとりひとりが多様な価値観を認め、共有しあえる
共生社会の実現に寄与する。

運営法人内におけるNO-MAの位置づけ



運営法人内におけるNO-MAの位置づけ

本部事務局企画事業部

障害のある人の地域生活の推進を図るための先駆的サービスの実践・開発を軸に、誰もが安心して地域で暮らすことの出来るシステムの構築を図ることを目的に平成13年度創設。

地域ケアサービス 推進事業

制度の狭間にあり支援の手が伸びていない障害のある人への必要な福祉サービスをモデル的に実践する。

地域ケアシステム 推進事業

相談支援体制整備の改善と地域ケアシステムが円滑に継続運営されるよう、地域自立支援協議会の事務局体制及び委託の相談支援活動をする。

芸術・文化促進 事業

障害のある人の生み出す表現の可能性を世に広く伝える場を作り、その魅力を発信する。

展覧会の開催

NO-MA開設記念企画

私あるいは私

[静かなる燃焼系]

平成16年7月3日～9月20日

伊藤喜彦/岩崎司/初代宮川香山/

高峰格/森村泰昌

NO-MAの名称にもある、「ボーダレス・アート」をコンセプトとした展覧会の始まり。以降、年間2～4本の企画展を開催。

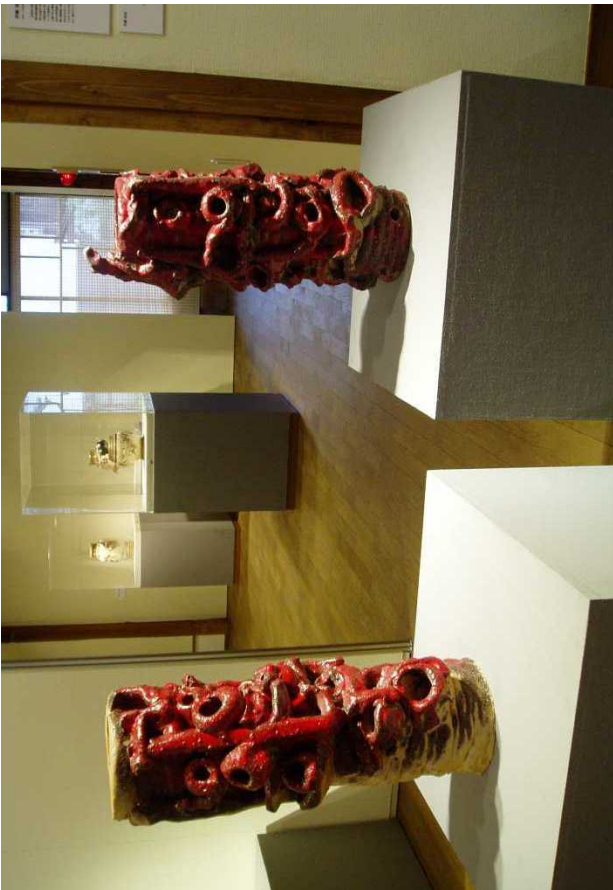
6



私あるいは私 展示風景



7



「快走老人録 老ヒテマスマス過激ニナル」

平成18年9月16日～11月15日

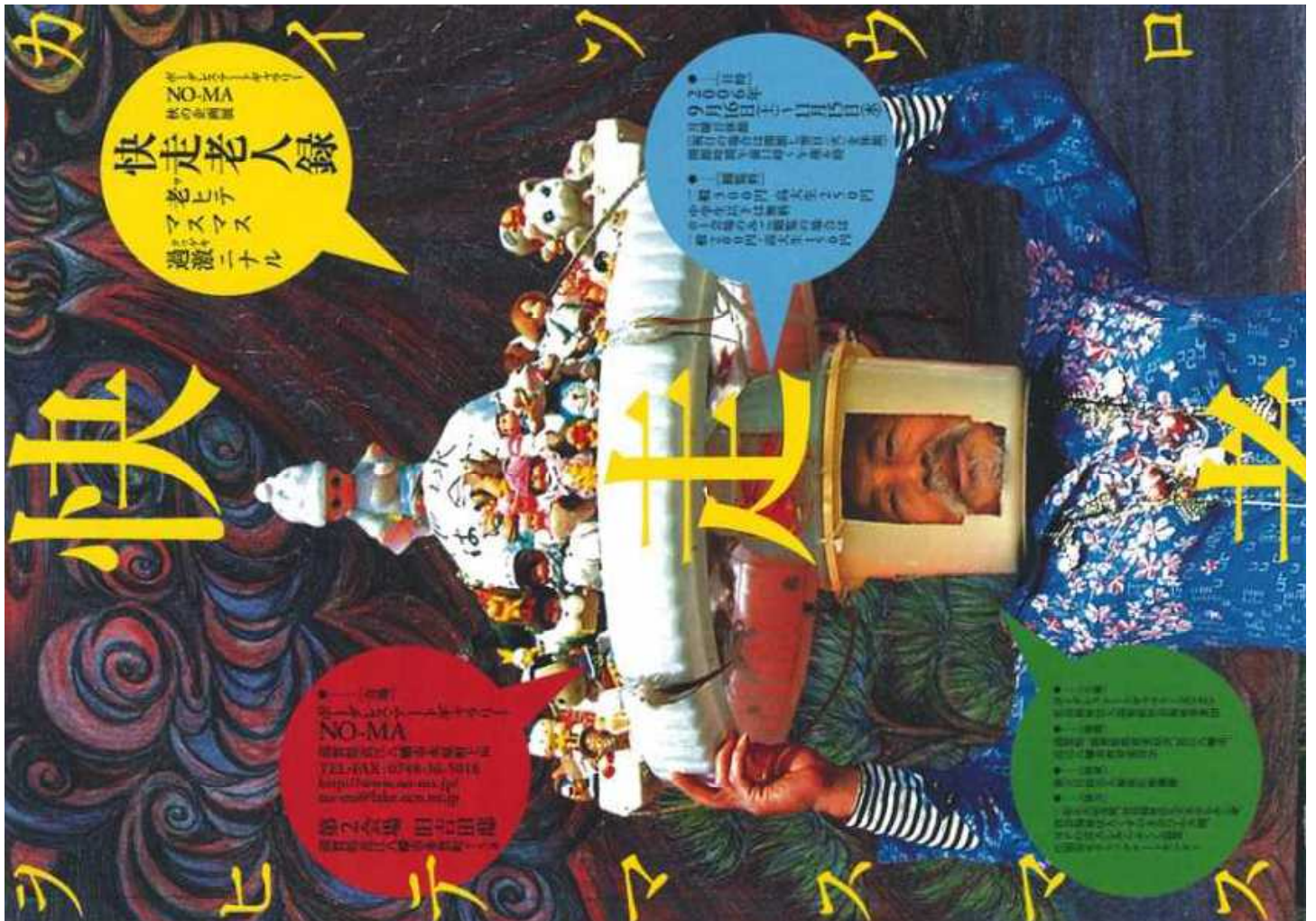
上岡安胤/小幡正雄/河野咲子/

塔本シスコ/林田嶺一/三松正夫/

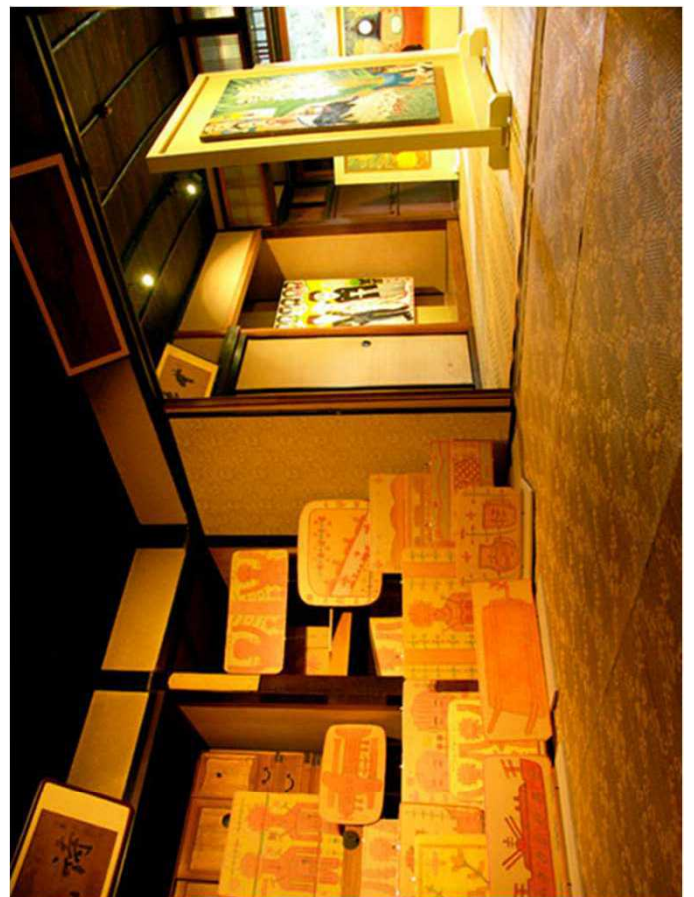
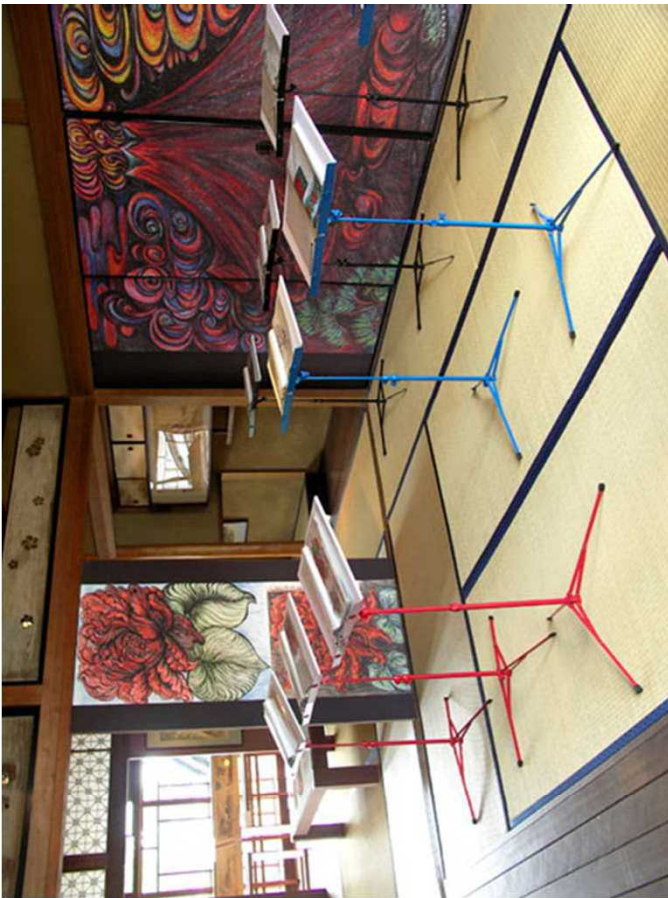
宮間英次郎

一般のアーティストと障害のある作者とい
うことのみならず、「高齢」という切り口も
加えたボーダレス・アート展。

8



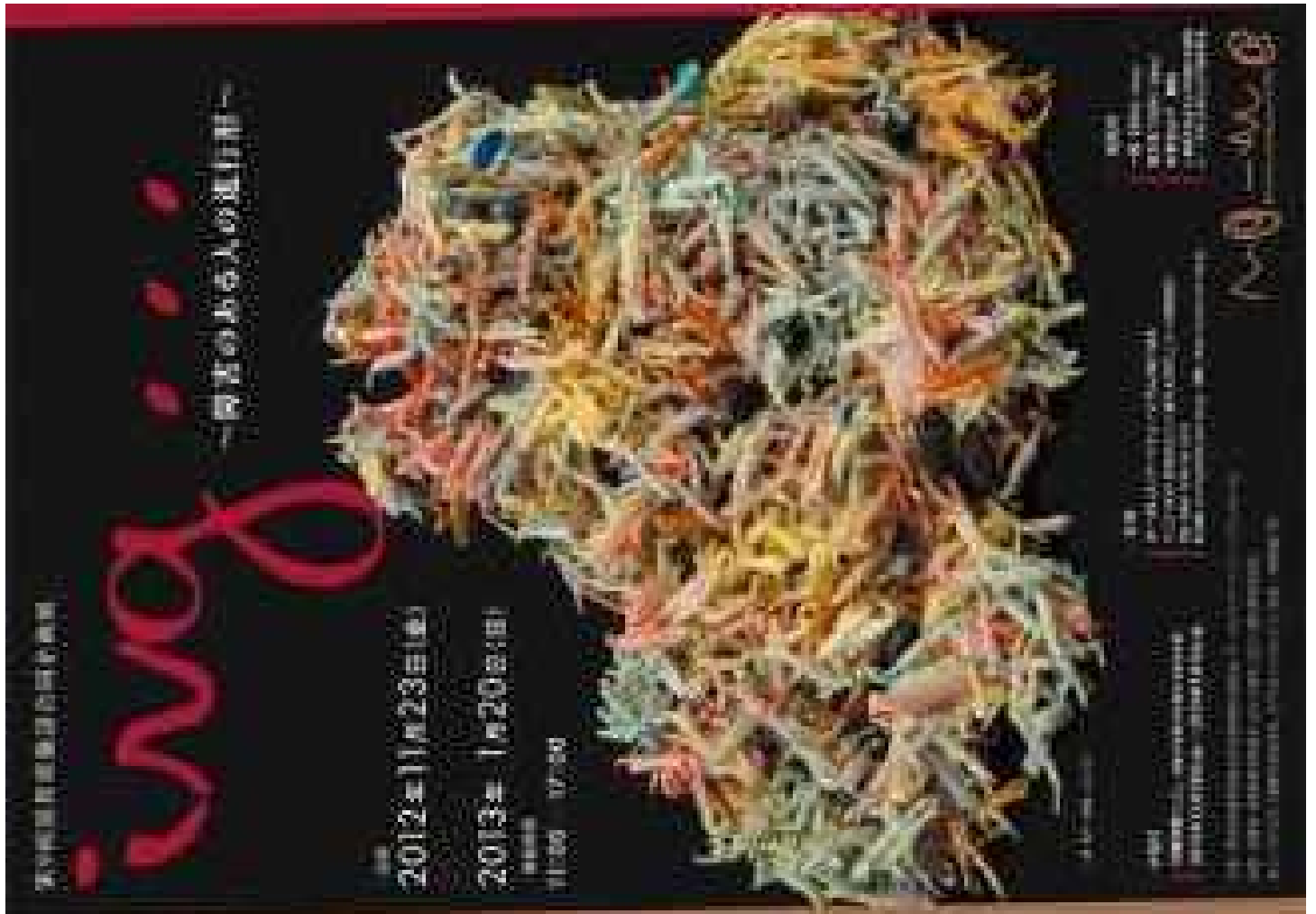
快走老人錄 展示風景

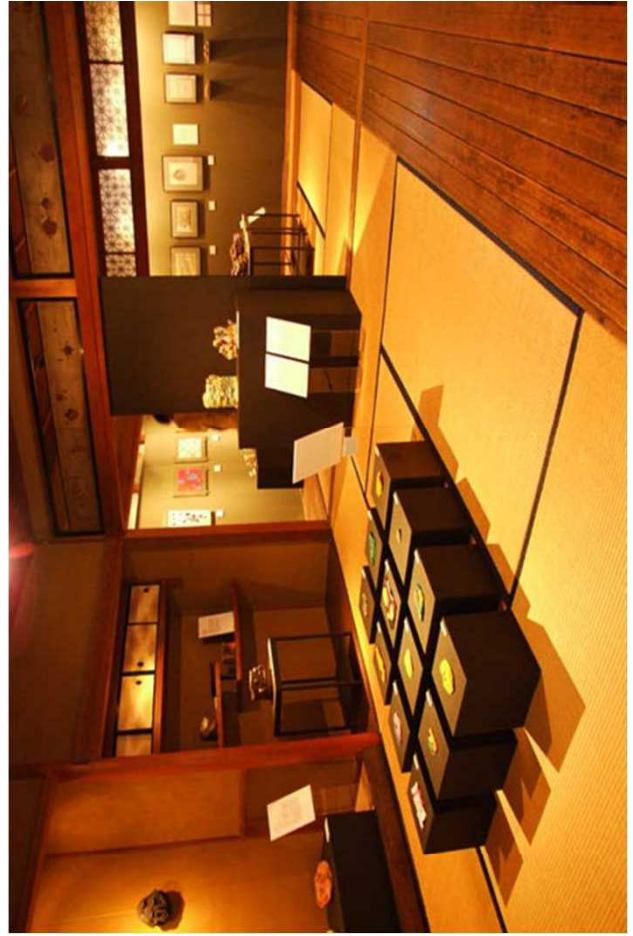


滋賀県施設合同企画展 ing・・・～障害のある人の進行形～

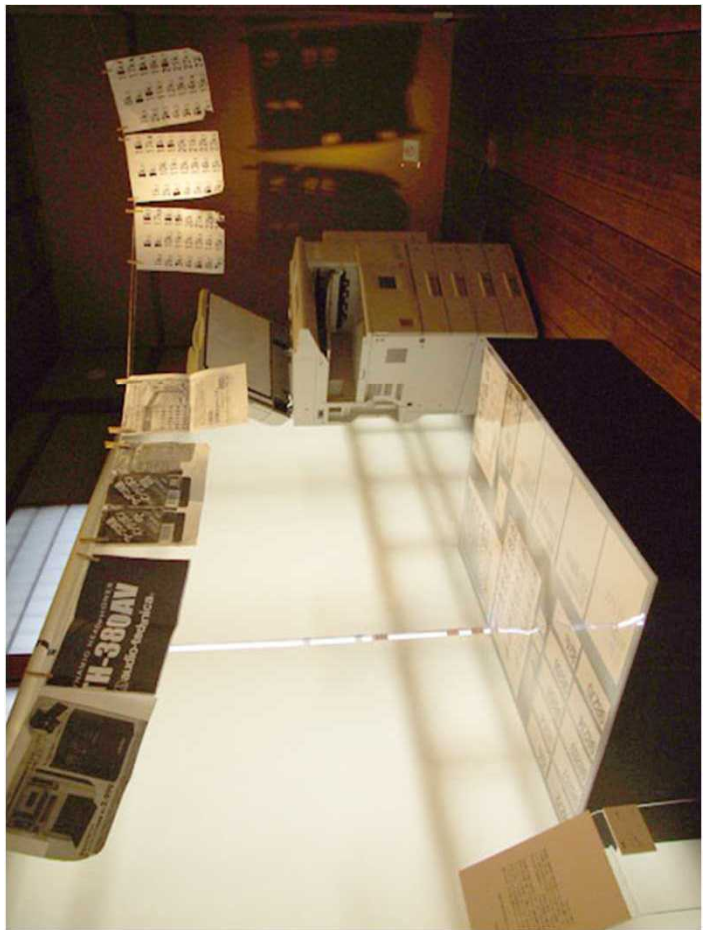
- ・滋賀県内の障害福祉サービス事業所利用者の造形作品を紹介する展覧会。(例年20前後の事業所が参加)
- ・参加事業所の職員からなる実行委員会が主体となって展覧会を企画・運営する。(NO-MAが事務局を務めている)
- ・職員の情報交換や交流の場とすることや人材育成も目的としている。
- ・平成25年度第10回を迎える。今年度の参加施設は26施設(5月29日現在)

18





第9回滋賀県施設合同企画展 展示風景¹



国外団体との連携事業 国外での日本のアール・ブリュットの広がりに

アール・ブリュット・コレクション美術館(スイス)と ボーダレス・アートミュージアムNO-MAとの連携事業

【平成18年～20年】



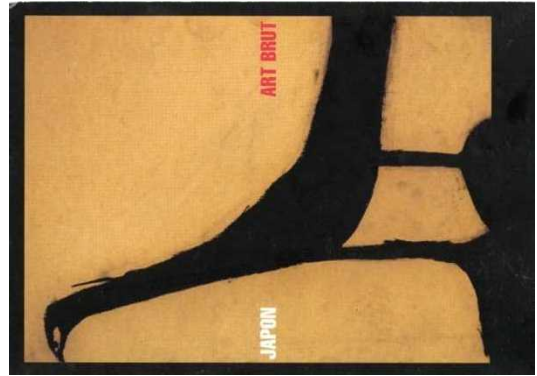
アール・ブリュット・コレクション
(スイス ローザンヌ市)

この連携事業がきっかけとなり、アール・ブリュットがNO-MAの事業の柱の一つとなる。

平成18年 館長が来日し、国内の作品調査等を実施



平成20年 日本、スイス両国で企画展を開催



スイス ローザンヌ



北海道、滋賀、東京

アロイーズ財団(スイス)との連携

「アール・ブリュット作品との対話～心の病と表現衝動～」の開催
平成21年2月3日(火)～5月10日(日) 会場: ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
※同展は、東京都(ワタリウム美術館)、北海道(北海道立旭川美術館)へ巡回



NO-MA会場を訪れるジャクリーヌ・
フォレル理事長と嘉田滋賀県知事



ジャクリーヌ・フォレル氏の講演(滋賀)

フランスの美術館での展覧会の開催

アール・ブリュット・ジャポネ展

会期：平成22年3月24日～平成23年1月2日

主催：パリ市立アール・サン・ピエール美術館

出展者数・出展作品数：63人（20都道府県）、778点



オープニングパーティー（美術館エントランス）



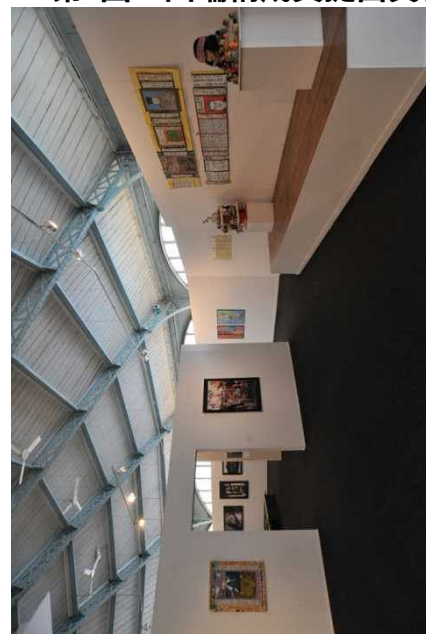
展示の様子



パリ市街に掲示されたポスター



展示の様子



観覧者数：約12万人¹⁵

NO－MAの日本事務局としての主な役割

出展作家との調整

出展作家の権利保護

出展作品の輸送（調書作成他）

日本国内での広報

- ・実行委員会の組織、運営
- ・公式サイト運営、ニュースレターの発行
- ・事前展覧会の開催 他

記念写真集の出版



出展説明会(全国
18か所34回実施)



調書作成



第1回実行委員会
(2009. 7. 23)¹⁶

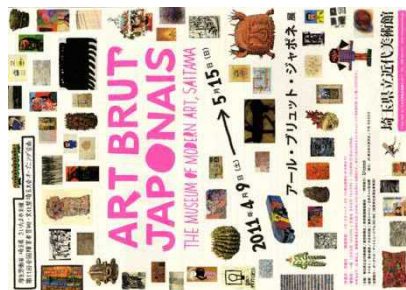
国内でのアール・ブリュットの広がりに

アール・ブリュットを扱う展覧会の増加

アール・ブリュット・ジャポネ 展の国内巡回

平成23年度

- ・4月 埼玉県立近代美術館
- ・7月 新潟市美術館



平成24年度

- ・4月 高浜市やきものの里
かわら美術館
- ・6月 岩手県立美術館

平成25年度

- ・4月 高知県立美術館
- ・10月 福岡市美術館
- ・12月 熊本市現代美術館

平成22年度

- ・3月 福岡アジア美術館
- ・11月 東京都 都政ギャラリー



平成23年度

- ・8月 瀬戸内市立美術館
- ・10月 びんてまりの館

平成24年度

- ・6月 浜松市美術館
- ・8月 長野県民文化会館

アール・ブリュットをテーマ とした展覧会(一部)

アール・ブリュットを発信する美術館の開設



平成16年 ボータレス・アートミュージアムNO-MA
(滋賀県)



平成19年 るんびにい美術館(岩手県)



平成23年 藁工ミュージアム(高知県)



平成24年 鞆の津ミュージアム(広島県)



平成24年 みずのき美術館(京都府)



平成25年開設予定
はじまりの美術館(福島県)

アール・ブリュットネットワーク 平成25年2月10日設立

1 目的

美術、福祉、医療、研究機関、行政等の異なる分野や立場の人たちが連携して、アール・ブリュットを支える環境全体を底上げする。

2 役員

会長：青柳正規（独立行政法人国立美術館理事長・国立西洋美術館長）

副会長：末安民生（日本精神科看護技術協会 会長）

3 会員数

541件（団体134件・個人407件） ※平成25年5月17日現在

4 アール・ブリュットネットワーク設立記念フォーラム

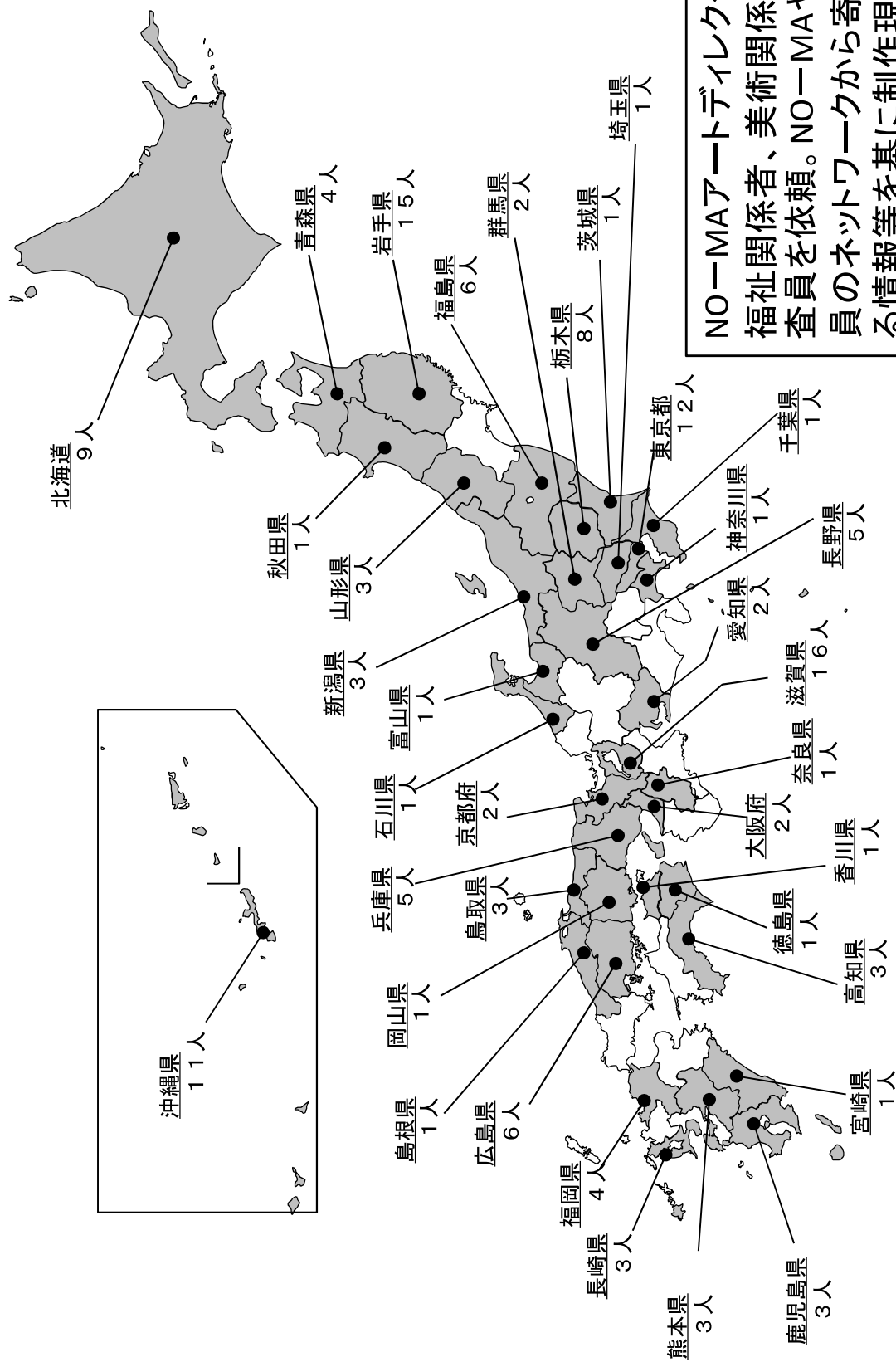
アール・ブリュットネットワークの発足を記念し、設立記念フォーラムを開催。



発足式・設立記念フォーラム
320人が参加

各事業を支える取り組み

国内作品調査 36都道府県143人(平成18年度～24年度)



NO-MAアートディレクターや福祉関係者、美術関係者に調査員を依頼。NO-MAや調査員のネットワークから寄せられる情報等を基に制作現場を訪問調査。その結果は調査報告書にまとめられている。22

国外作品調査 韓国、台湾

【韓国 平成21～22年度】



成均館大学教授のコレクションを実見(ソウル)



誠信女子大学美術学部長らと打ち合わせ
(ソウル)

【台湾 平成23～24年度】



台北市立教育大学 視覚芸術研究所
教授への聞き取り調査(台北)



アール・ブリュット作者の調査の様子
(台北)



障害者芸術専門のギャラリー(台中)

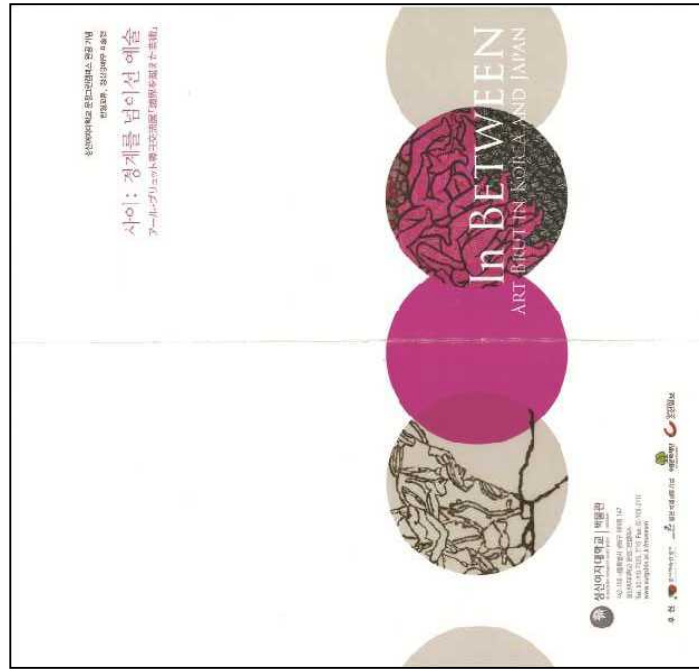


国立台東生活美学館館長からの聞き取り
(台東)

日韓合同企画展の開催（平成23年度）

韓国：「IN BETWEEN ART BRUT IN KOREA AND JAPAN」

日本：「Art Brut in Japan and Korea 日/韓 行き交うところ」



韓国 ソウル



滋賀県

作品調査をきっかけとして現地の関係団体と連携し、合同企画展を開催。

作者の権利保護の取り組み 展覧会出展と成年後見制度

アール・ブリュット・ジャポネ展が契機となる

これまでは出展の意思を確認すること、ご自身での契約が難しい作者については、ご家族や所属施設・病院のスタッフから了解を得ていたがそれでは本人が契約したことにならないとの弁護士からの指摘。

美術館からの申し入れ

**「出展にあたっては、作家個人と
出展契約を締結する」**

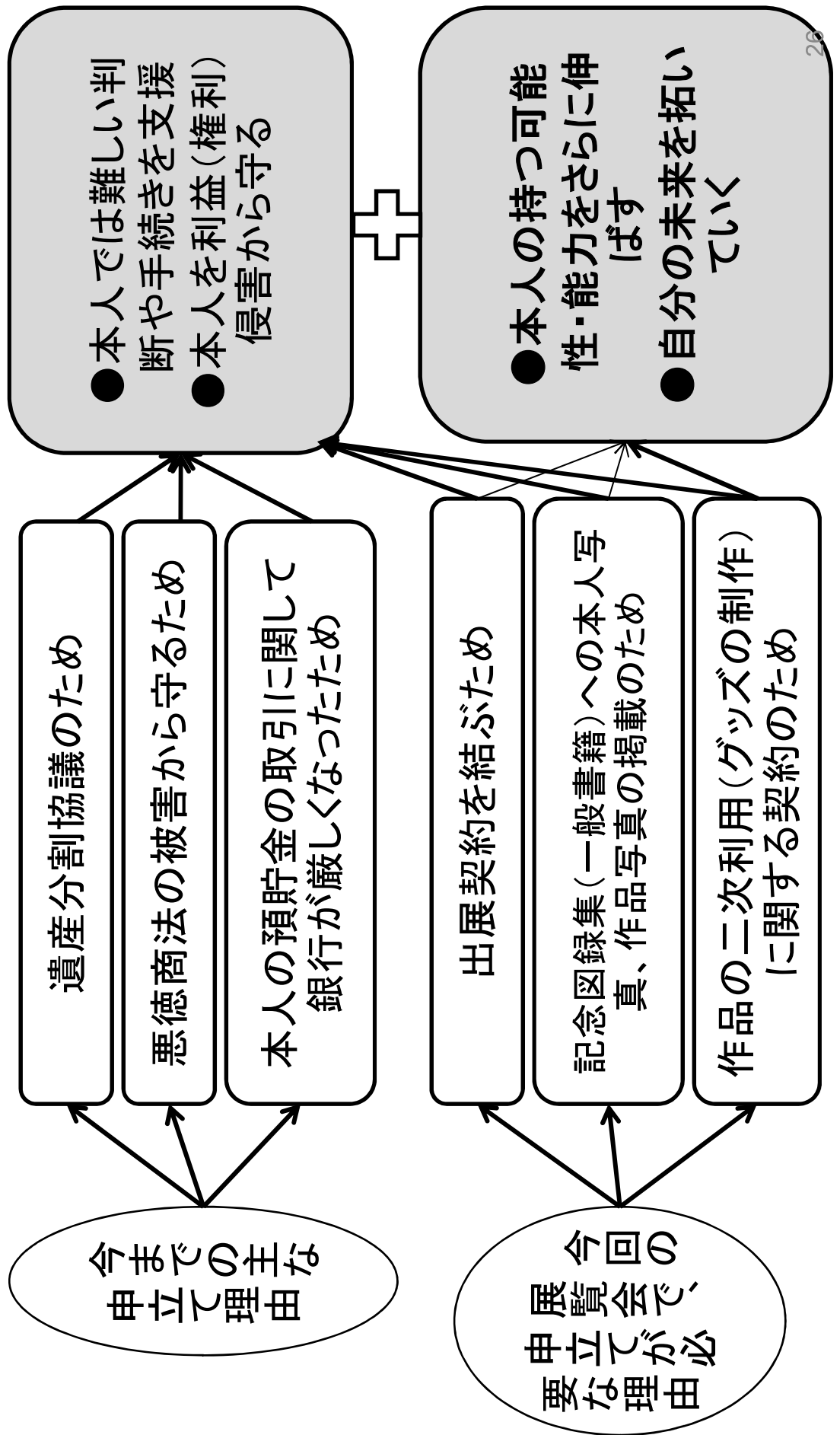
展覧会開催後に想定されること

- ・ 他の展覧会への出展依頼
 - ・ 作品の二次使用のオファー
 - ・ 作品の売買のオファー
- 等の所有権・著作権に関すること



作者の権利保護の取り組み

展覧会出展と成年後見制度活用の意義 (アール・ブリュット・ジャポネ展説明会資料)

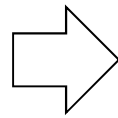


造形活動支援拠点の設置

「県内における造形活動の実施状況に関する調査」(平成23年8月滋賀県実施)
造形活動を行っている」と回答したのは61の障害福祉サービス事業所。

全体の42%。(※199 事業所中回答数145(回収率73%))

そのうち造形活動で行う上で「困っていることがある」と回答した事業所 は74%。
そのうち、56%が「相談や情報交換ができる場」の設置を望んでいる。



この調査結果を受け、滋賀県の具体的取り組みとして

平成24年6月 **アール・ブリュット・インフォメーション&サポート
センター** (略称アイスア) が滋賀県社会福祉事業団企画事業部内に開
設される。

アイサに寄せられた相談の分類 (総活動数 203回 平成24年6月～平成25年3月)

アイサの活動キーワード

「つくる」 作品をつくる、展覧会をつくるなど関する必要な情報を提供
「つながる」 作品を出展したい、造形現場を見てみたいなど作者と社会がつながることをサポート
「まもる」 作者の権利が保護され、安心して造形活動に取り組めるようサポート

【県内・県外別】

滋賀県内	105回
滋賀県外	98回

【相談者別】

作者・家族等	40回
障害福祉施設	50回
国・自治体	38回
美術館等	14回
報道・企業	37回
一般市民	12回
その他	12回

【相談内容別】

展示機会等の情報提供	24回
展覧会開催への助言	38回
造形活動への情報提供	13回
作品出展(利用)の仲介等	72回
作者取材、施設訪問等に関する仲介等	15回
権利保護に関する助言	23回
その他	18回

○滋賀県外からの相談が全体の約半数を占めている
○作者や家族等から展示機会を求める相談が多いが地域によっては資源がない場合がある
○障害福祉サービス事業所からは権利保護に関する相談が比較的多い

NO-MAやアイサの取り組みから 見る課題

NO-MA、アイサの取り組みから見る課題

①作品収蔵の手段と方法の確立

- 収蔵場所の確保
- 収蔵作品の選定方法の確立

②相談支援機能の充実

- 造形活動や作品展示の機会に関する情報提供（全国的な情報の集積）
- 身近な地域で相談できる仕組み

③作者の権利に関する啓発

- 著作権等に配慮した作品（著作物）利用の方法や障害福祉サービス事業所での造形活動における著作権等保護に関する啓発

④人材の育成

- 障害者等の芸術活動を支える人材の育成
- 作品の評価、発信を行う人材の育成

NO-MA、アイサの取り組みから見る課題

⑤関係者間の交流支援

- 障害者の造形活動支援について情報交換ができる障害福祉サービス事業所や病院等のネットワークの構築
- 芸術分野の人材との出会いの場づくり(福祉と芸術の相互活用)

⑥芸術活動への参加促進

- 障害者が芸術活動に参加する(始めようとする)ための情報提供
- 公募展の実施、既存の公募展の活用(発表の場の確保)

⑦障害者にとどまらない取り組み

- 障害や高齢などの属性にしばられない横断的な取り組みを可能とする
仕組み

これらの課題に永続的に取り組むことのできる体制が必要(安定した運営)

[アトリエ インカーブのビジョン]

**アトリエ インカーブは
知的障がいがある方の作品を
現代を生きる人が生み出すアート＝『現代アート』
として発信しています**

アトリエ インカーブ（以下：インカーブ）では、知的障がいがある方の作品をアール・ブリュット、アウトサイダー・アート、障害者アート等の名称でカテゴライズしません。現代を生きる人が生み出すから「現代アート」。ゆくゆくは、この「現代アート」ということさえ言わずに、彼らの作品が、より広く多くの人々に鑑賞、議論され、美術市場で売買されてほしい。それが社会福祉法人としてのインカーブの理想です。



アトリエ インカーブは、社会福祉法人素王会の事業本部として 2002 年 9 月に大阪市に設立されました。現在、28 名の知的障がいがある方がアーティストとして所属しています。

インカーブ設立当初、所属アーティストの作品は「障がい者」ということ抜きにみてもらえませんでした。私たちは、作品の芸術性を問いたく、2005 年にニューヨークのギャラリーで発表しました。作品は、障がい者ということを唱わずに鑑賞、購入され、芸術性が認められたことを実感しました。

かく言うインカーブも「アール・ブリュット」の英語訳である「アウトサイダー・アート」として発表していた時期がありました。歴史的・芸術的に評価の定まっていないものに対して名称を付けることで、作品を扱うことに安心感を付与し、日本特有の「障害者アート」と名付けられることを回避する意図でした。

一方、「アウトサイダー・アート」は、ヒューマニズムの観点から「何に対するアウトサイドなのか」と最近欧米で差別的と認識されてきています。インカーブも含む社会福祉法人は、ユニバーサル社会を実現することが責務のひとつであると考えます。アール・ブリュット、アウトサイダー・アート等、カテゴライズする名称から脱却し、障がいがある人だけに特化した新たなハコモノではなく、既存の美術館に作品が収蔵されることが、ユニバーサルであるとの思いに現在は至っています。

ニューヨーク近代美術館（MoMA）には、アール・ブリュットのアーティストとされるヘンリー・ダーガーなどの作品が収蔵され、何の区別もなく展示されています。インカーブでも、所属するアーティストの作品が、障がいの注釈なしに広く多くの人々に鑑賞、議論、売買されることを望んでいます。

[アトリエ インカーブの事業展開]

創造性豊かな知的障がいがある方が
『アーティストとして独立』することを目指します



国内外の現代アートのアートフェアに出展
作品を販売しアーティストの収入になっています

アトリエ インカーブは、日本最大の美術見本市「アートフェア東京 2013」に、社会福祉法人として初めて出展しました。今後も国内外のアートフェアに出展・出品し、アーティストの収入確保に努めます。

また、平成 21 年度よりインカーブのクリエイティブディレクター今中博之が「大阪府アートを活かした障がい者の就労支援事業企画部会（以下：府企画部会）」副委員長等を務め、創造性豊かな知的障がいがある方が、アーティストとして独立するための提言を行っています。



府企画部会の提言をもとに、大阪府が「大阪府現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト 2012 公募入選作品展」を開催しました。建畠哲氏（京都市立芸術大学学長）、秋元雄史氏（金沢 21 世紀美術館館長）、南畠宏氏（女子美術大学教授）が、大阪府下から集まった、障がいがある方による作品約 720 点の作品審査を行い、最優秀賞はじめ各賞を決定。受賞作品による展覧会が大阪府立現代美術センターで開催されました。その時の図録『感性の王国-完全なる自由へー』からの言葉をご紹介します。

◎『確かに「障がい」という言葉には慎重な歩み寄りが求められます。「障がい」には様々なケースがあり、それをひとつの響きの中に押し込もうとするには相当の無理があるからです。そして、そもそもこの「障がい者」という言葉が、世界のどこにも存在しない、幻想としての「健常者」と対をなすように想定されたものでありながら、（ありもしない）健常とされる世界の美術を、これまでただの一度も「障がいのない者のアート」などという呼び方をしたことがなかったことを思い出すにつけ、この「障がい」という響きの中に内包されてきた未整理の意図について、私たちは改めて慎重にして本質的な関わりを模索しなければならないと思われるのです。』

—女子美術大学教授 南畠宏

◎『障がいのある方が制作された創造性豊かな芸術性の高い作品を現代アートとして評価し、アーティストへの道を拓いていこうとする取組みです。』—大阪府知事 松井一郎

[課 題]

①

カテゴライズ（分類）から インテグレーション（統合）へ

アール・ブリュットのアーティストとされるヘンリー・ダーガーやビル・トレイラーなどは、ニューヨーク近代美術館（MoMA）に、何の 카테고리 分けもなく展示・収蔵されています（*下記 URL 参照）。2012 年には、MoMA の隣に位置し、アール・ブリュット作品を含むフォーク・アートを専門に扱う「フォークアート・ミュージアム」が閉館しました。現在日本には、「現代美術」と名のつく、公費によって運営されている美術館が 10 ヶ所を超えます。アール・ブリュットに限定せず、現代アートを扱うこれらの既存の美術館を中心に、作品を分け隔てなく調査・収蔵・保管・展示することをめざし、学芸員に理解を広げ、そのための予算を投入することが必要ではないでしょうか。

（*参考 URL）ヘンリー・ダーガー http://www.moma.org/collection/artist.php?artist_id=28600

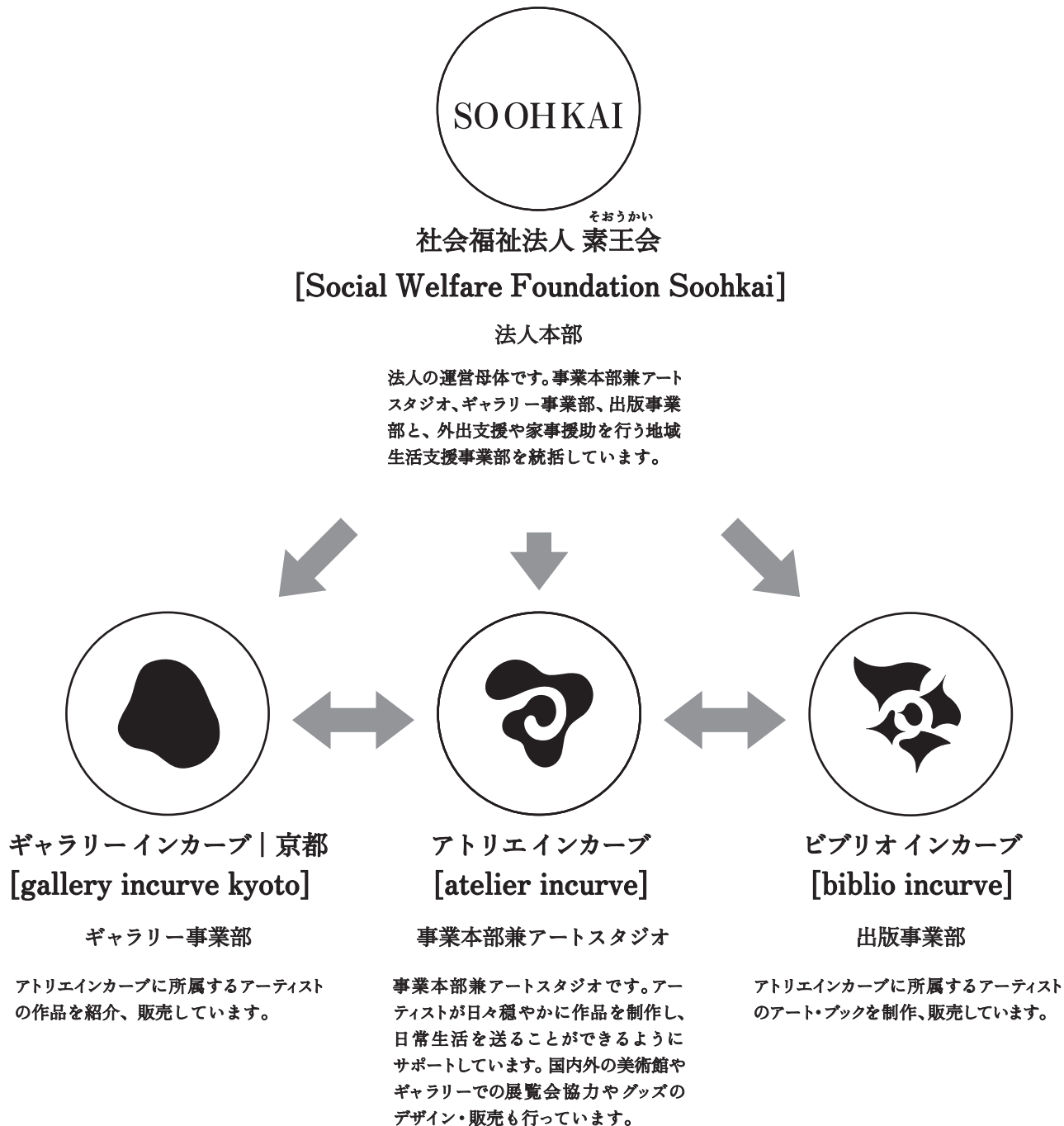
ビル・トレイラー http://www.moma.org/collection/artist.php?artist_id=7464

②

福祉現場に アート・デザインに長けた人材を

知的に障がいがある方によって作られたものは、作品としてその価値が見いだされないまま、廃棄されることも少なくありません。作品が散在、廃棄されることを防ぐためには、福祉現場（施設や居宅介護）のスタッフが、それらに美術的価値を認め、保管・発信していかなければなりません。現在の福祉現場のスタッフは、アート・デザインについて学んだ経験もなく、日常生活を介護・支援することに手一杯になっています。福祉とアート・デザインの両輪を備えた優秀なスタッフを育成し、福祉現場の仕事に魅力を感じてもらうことが急がれます。具体策として、美大・芸大の学生への興味喚起として講演会やインターンシップを行う、福祉現場スタッフにアート・デザインを学ぶ機会を提供する、などが考えられます。

[組織図]



障害者の芸術活動への支援を 推進するための懇談会

第2回資料

一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会

懇談会 構成員

上野 密 プロフィール

一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会 常務理事
 社会福祉法人 日本肢体不自由児協会 理事・評議員
 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団 理事・評議員
 財団法人 日本おもちゃ図書館財団 評議員
 公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団 理事

全肢連の取り組み

グラフィックアート・コンテンツ

趣旨

本会では、肢体不自由児者のリハビリテーションの一助として活用されていた「電動タイプライター」の活字や記号を組み合わせ、絵やデザインとして創作した作品の発表の場として、昭和57年より「タイプライターコンテンツ」をスタートした。

時代の流れとともに、このコンテンツもコンピュータ・グラフィックコンテンツ等、形を変え今年で32回目を迎えた。現在は「コンピュータアート」「デジタル写真」「動画」部門を設け、障害児者の芸術活動を応援している。

作品 コンピュータアート／デジタル写真／動画

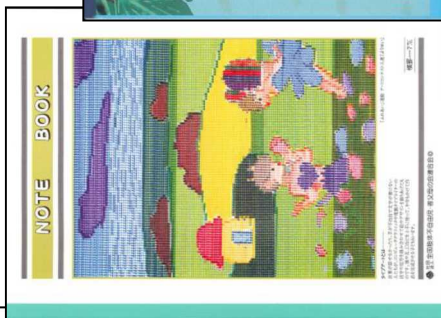
応募資格 コンピュータアートの部 障害児者
デジタル写真／動画の部 障害児者とその家族、関係者

表彰及び広報

社会に対する啓蒙活動として、優秀作品を表紙にしたノート、レポート用紙などの頒布活動を行っている。

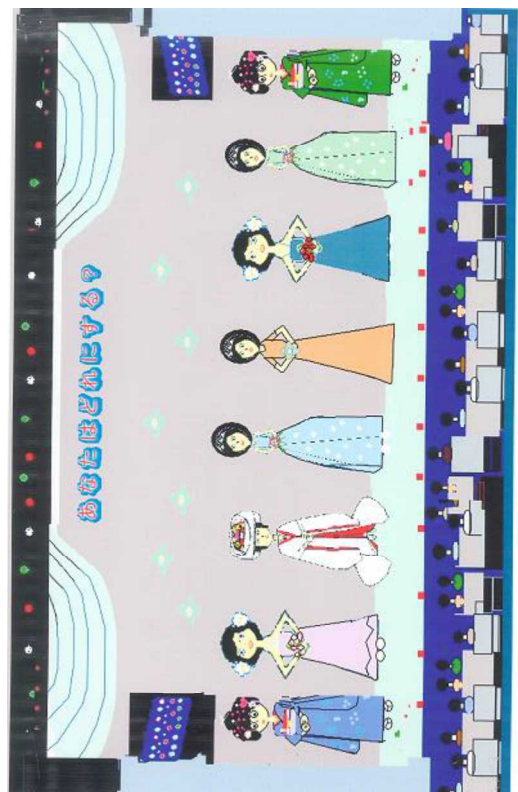
ホームページ「響」などで広報に努めている。

優秀作品をノート等の表紙に

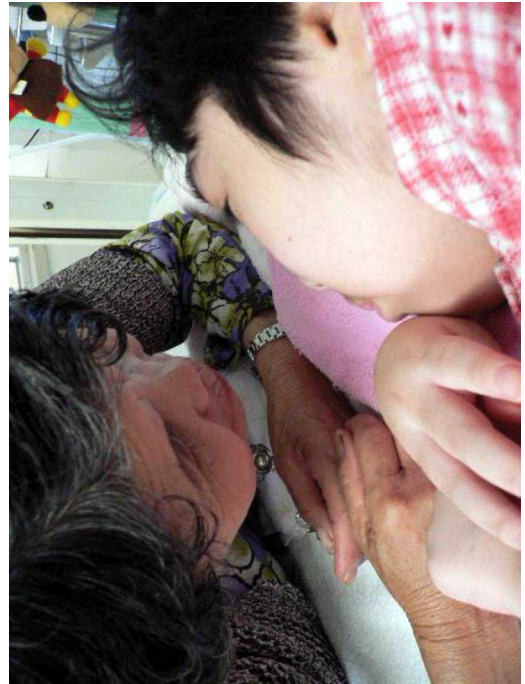


第31回 優秀賞
浜 茂美 「島根の城」

第32回 コンピュータアート部門
優秀賞 金田浩美 「わたしのあこがれ」



第32回 デジタル写真部門
優秀賞 森 米子 「はるか～2013年5月」



日本肢体不自由児協会 主催 「肢体不自由児・者の美術展」「肢体不自由児・者のデジタル写真展」

「肢体不自由児・者の美術展」

趣旨

全国の肢体不自由児・者から美術作品「絵画」「書」「コンピュータアート(タイプアート含む)」を募集し、肢体不自由児・者の生きがいづくりに資するとともに、一般の人々の障害者に対する理解を促進することを目的とする。毎年12月の障害者週間に合わせて展示会を開催する。

「肢体不自由児・者のデジタル写真展」

趣旨

デジタルカメラで写真を撮るというのは、自分で作品を作る楽しさを比較的簡単に味わうことができるとともに、撮影した写真を加工して楽しむことができる。

そこで全国の特別支援学校や肢体不自由児・者施設等に働きかけデジタル写真作品を募集し、コミュニケーションと生きがいづくりの構築をはかることを目的とする。毎年12月の障害者週間に合わせて展示会を開催する。

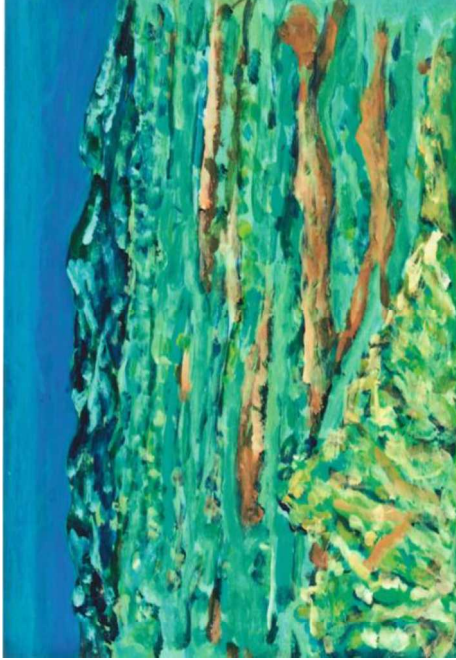
全肢連の取り組み

今年で32回となる日本肢体不自由児協会主催の「肢体不自由児・者の美術展」「肢体不自由児・者のデジタル写真展」に発足当時より参画し、運営委員を務めるほか、「絵画」「書」部門に全国肢体不自由児者父母の会連合会賞を設けるなど芸術活動に寄与している。

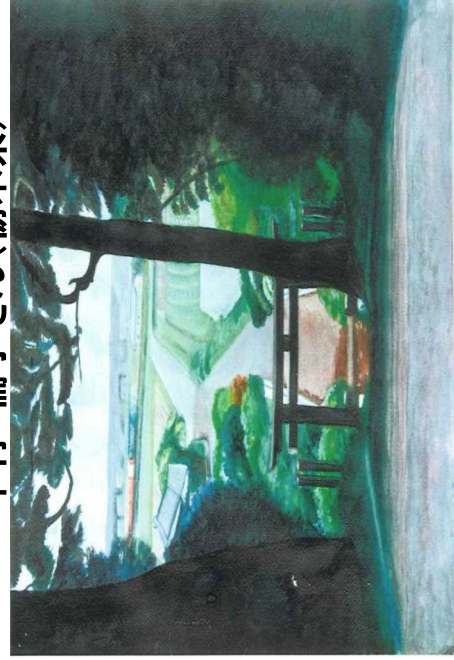
また、本会の会報等に受賞作品を掲載して報告、周知をしている。

全肢連賞

23年度(第30回)絵画の部「野山」
浦上哲也(山梨県)



24年度(第31回)絵画の部「杜の中から」
中村 倫子さん(栃木県)



23年度(第30回)書の部「大地」
船橋総一郎(青森県)



24年度(第31回)書の部「空閑茶味清」
石川 國子(沖縄県)



○障害者の芸術活動を支援するためのこれまでの取組（厚生労働省）

（１）全国障害者芸術・文化祭の開催

障害者芸術・文化祭は、全ての障害者の芸術及び文化活動への参加を通じて、障害者の生活を豊かにするとともに、国民の障害への理解と認識を深め、障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的とする。

〔開催〕

平成13年度より実施。25年度は第13回を山梨県で開催予定。

(H20)滋賀県、(H21)静岡県、(H22)徳島県、
(H23)埼玉県、(H24)佐賀県、(H25)山梨県

※ 障害者芸術・文化祭の開催に当たっては、文部科学省主催の国民文化祭と併せて開催することを奨励。

〔25年度予算〕

3,600万円（定額を開催県に補助）

（２）芸術・文化講座開催等事業（地域生活支援事業）

芸術文化活動等を行うことにより障害者等の社会参加を促進することを目的とする。

〔実施主体等〕

・実施主体：都道府県、市町村

・事業内容：障害者等の芸術・文化活動を振興するため、障害者等の作品展や音楽会など芸術・文化活動の発表の場を設けるとともに、障害者等の創作意欲を助長するための環境の整備や必要な支援を行う。

・留意事項：芸術・文化活動を行っている障害者等を把握し、その名簿を作成するとともに、民間活動の情報を収集し、障害者等に芸術・文化活動の発表の場の情報提供を行う等の支援を行うこと。

〔25年度予算〕

地域生活支援事業460億円の内数

補助率：①都道府県 国1／2以内

②市町村 国1／2以内、都道府県1／4以内

〔23年度実績〕

①都道府県：30力所、②市町村：181力所

(3) 国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）における障害者の芸術・文化の発信

障害者の芸術・文化活動について、先進事例等の調査研究、活動団体に対する専門家によるアドバイス等を行い、障害者の芸術・文化活動の充実・振興を図る。

〔25年度予算〕

3,958万円（実施主体：国 委託先：ビッグ・アイ協働機構）

(4) 障害者総合福祉推進事業（18～21年度は障害者自立支援調査研究プロジェクトとして実施）

障害者施策全般にわたり引き続き解決すべき課題や新たに生じた課題について、現地調査等による実態の把握や試行的取り組み等を通じた提言を得ることを目的として実施。

〔指定課題〕

障害者の芸術文化活動に関するテーマについても、毎年度、指定課題として設定。

(5) 障害者自立支援対策臨時特例交付金の交付

障害者自立支援法の施行に伴う事業者等に対する運営の安定化、新法への移行等の円滑化等のための基金（平成18年度から24年度、総額3,535億円）において、平成21年度から「障害者アート特別啓発事業」を対象としていた。（基金は24年度で廃止。）

〔目的〕

国民の障害者アート作品への理解を促進するため、一般の美術作品とともに障害者の作品を鑑賞する機会が確保できるよう、美術館等における障害者アート作品を含めた展覧会等の開催を支援し、芸術文化活動を通じた障害者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。

〔実施主体等〕

- ・実施主体：都道府県、市町村
- ・事業内容：美術館等における障害者アート作品を含めた展覧会等の開催経費助成
- ・補助単価：都道府県400万円以内、市町村200万円以内（定額）

文部科学省における障害者の文化芸術活動を振興するための取組

1. 基本的な考え方

障害のある方による文化芸術活動の取組を支援することは、文化芸術の振興につながるものであり、大変意義あるものと認識。

平成23年2月に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」(第3次基本方針)においても、「障害者等の文化芸術活動を支援する活動を行う団体等の取組を促進する」ことを記載。

2. 取組の例

特別支援学校の生徒による作品の展示会や舞台芸術の発表を支援

全国高等学校総合文化祭において、一部門を設け、特別支援学校の生徒による美術作品等の展示会や舞台芸術の発表を支援。

※全国高等学校総合文化祭(平成25年度予算額 77百万円の内数) 平成24年度は富山県で実施。

地方公共団体が企画する優れた文化芸術の創造発信事業に対する支援

地方公共団体が企画する優れた文化芸術の創造発信事業に対する支援を行う中で、申請・審査を通じて、障害のある方が行う活動を支援。

※地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ(平成25年度予算額 2,936百万円の内数)

【支援の例】「美の滋賀」づくり推進事業 滋賀の芸術振興の取組の一環で、アール・ブリュット作品の展示等関連事業を実施。

全国障害者芸術・文化祭への後援等

厚生労働省が地方公共団体と実施している全国障害者芸術・文化祭への後援等を実施。

※平成25年度は、文化庁で実施する国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭とも山梨県で実施することを予定。

芸術団体等が行う芸術の創造普及活動等に対する支援

(独)日本芸術文化振興会において、芸術文化振興基金により、芸術団体等が行う芸術の創造普及活動等に対する支援を行う中で、申請・審査を通じて、障害のある方が行う活動を支援。

※芸術文化振興基金(舞台芸術等の創造普及活動、地域の文化振興等の活動)(平成25年度予算額 1,296百万円の内数)

【支援の例】障害者のアート展や、聴覚障害者が協力して手話やパントマイム等により行う公演、

身体障害者が創作・演出し演じる劇団の公演、障害者が作詞・作曲した作品を中心とする音楽祭等に対し支援。

(独) 特別支援教育総合研究所におけるインターネットギャラリーの取組

全国特別支援学校文化祭に出品された絵画、書道等の優秀作品について、インターネットギャラリーへ掲載。

国内映画祭等の活動への支援

映画祭や多様な鑑賞機会の充実に資する特色ある日本映画の上映活動を支援。募集案内の中で、特色ある上映活動の例として、「字幕・音声ガイド付き映画の上映等、鑑賞環境をサポートするバリアフリー上映活動」を挙げている。

※芸術文化振興基金(国内映画祭等の活動)(平成25年度予算額1,296百万円の内数)

【支援の例】日本映画上映活動に関し、字幕や補聴援助システムを設置するユニバーサル上映映画祭等に対し支援。